表 石 第 1 遺 跡

Tawaraishi 1 Site

東九州自動車道(日向~都農間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1

2011

宮崎県埋蔵文化財センター



俵石第1遺跡から日向灘を望む



俵石第1遺跡から荒崎山を望む

巻頭図版2



俵石第1遺跡の基本土層



SC22 杭痕跡半截状況



礫群(SI13)Ⅲ層



礫群(SI 7) VI層



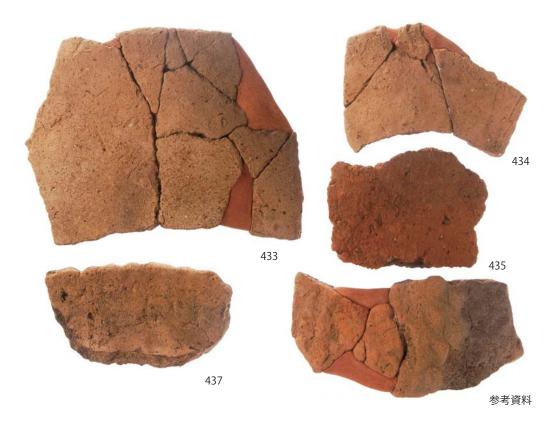
縄文時代早期の陥し穴状遺構 (SC6)



第Ⅷ層出土の水晶製石核・剥片



第Ⅳ層出土の石器(細石刃・細石刃核)



縄文時代早期の土器



縄文時代早期の石器

宮崎県教育委員会では、平成20年度から東九州自動車道(日向~都農間)建設予 定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を実施しており、本書はその報告書であります。

本書に掲載した俵石第1遺跡は、都農町大字川北字湯牟田に位置し、平成20年 11月から平成21年11月にかけて発掘調査が行われました。

調査の成果としましては、後期旧石器時代の5時期にわたる礫群や石器群が確認され、AT(姶良 Tn 火山灰)層下位から、周辺遺跡では見られなかった阿蘇溶結凝灰岩や水晶製の石器が出土したことがあげられます。

また、縄文時代早期の陥し穴状遺構が丘陵地の等高線に沿って列状に検出されたり、石鏃等の石器が多く出土したりしたことも成果の一つであります。

ここに報告する内容は今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるもの と考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、 埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、ならびに御 指導、御助言を賜った先生方に対して厚く御礼申しあげます。

平成 23 年 3 月

宮崎県埋蔵文化財センター 所 長 森 隆茂

例 言

- 1 本書は平成 20 年~ 21 年度に実施した東九州自動車道 (日向~都農間)建設に伴う俵石第 1 遺跡 の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は西日本高速道路株式会社九州支社から委託を受け、宮崎県教育委員会が調査主体となり宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地での実測図等の記録は今塩屋毅行、日高優子、横山正文、土屋雄毅、嶋田史子、太田真理子 を中心に行った。
- 4 現地での写真撮影は横山正文、今塩屋毅行、日高優子が行った。 また、遺物写真は今塩屋毅行が行った。
- 5 俵石第1遺跡では以下の業務に関しては委託を行った。

空中写真撮影 : (株)九州航空

基準杭設置 : (有)河野測量設計事務所

石器実測およびトレース : (株)パスコ

テフラ分析 : (株)古環境研究所

- 6 遺構・遺物の実測図作成は、整理作業員の補助を得て横山が行った。
- 7 本書に利用した関連遺跡位置図及び周辺遺跡分布図は、国土地理院発行の 1/50,000 地形図 (都農)を利用した。また、遺跡周辺地形図は土地分類基本調査図 (都農)及び、西日本高速道路株式会社九州支社延岡高速道路事務所提供の 1/2,000 図を基に作成した。
- 8 土層断面、遺構埋土の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版 標準土色帖』 に拠った。
- 9 本書で用いた標高は、海抜絶対高である。また、方位は座標北(G.N.)を基本とするが、遺構 実測図などの一部に磁北(M.N.)を用いた。
- 10 本書で用いた遺構・火山灰の略号は次のとおりである。

SC:土坑 SI:礫群・集石遺構 SZ:不明遺構 SH:ピット

K-Ah: 鬼界アカホヤ火山灰 Kr-Kb: 霧島小林軽石 AT: 姶良Tn火山灰

- 11 遺物実測の縮尺は、土器 1/3、石器 2/3 で統一した。また、遺構実測図においても礫群 1/30、 土坑 1/30、不明遺構 1/40、土層断面図 1/60 としている。
- 12 本調査区では、国土座標に準じた $10 \text{ m} \times 10 \text{ m}$ のグリッドを設定した。各グリッドについては、 G5Gr、H8Gr 等と表記することとする。
- 13 本書の執筆・編集は以下のように行った。
 - ・第Ⅰ章~第Ⅲ章、第Ⅳ章(第1節~第7節)、第Ⅵ章(第1節)・・・・・・・・横 山
 - ・第Ⅳ章 (8節~11節)、第Ⅴ章、第Ⅵ章(第2節~第3節) ・・・・・・・・・・今塩屋
- 14 出土遺物及び諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

| 第 I | 章 | . (| はじめに |
|-----|----|-----|---|
| | | | 調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 |
| 第 | 2 | 節 | 調査の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 |
| 第Ⅱ | 章 | j | 遺跡をとりまく環境 |
| | | | 地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |
| 第 | 2 | 節 | 歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 |
| 第Ⅲ | 章 | | 調査の経過と方針 |
| 第 | 1 | 節 | 発掘調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 |
| 第 | 2 | 節 | 整理作業の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 |
| 第 | 3 | 節 | 教育普及活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 |
| 第IV | - | - | 調査の記録 |
| | | | 基本層序 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10 |
| 第 | 2 | 節 | 石材の分類基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12 |
| 第 | 3 | | 後期旧石器時代文化層の認識・・・・・・・・・・・・・・・・19 |
| 第 | 4 | | 後期旧石器時代 I 期 ・・・・・・・・・・・・・・・・19 |
| 第 | 5 | 節 | 後期旧石器時代Ⅱ期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20 |
| 第 | 6 | | 後期旧石器時代Ⅲ期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34 |
| 第 | 7 | 節 | 後期旧石器時代IV期 ・・・・・・・・・・・・・・・ 54 |
| 第 | 8 | 節 | 後期旧石器時代V期・・・・・・・・・・・・・・・・・98 |
| 第 | 9 | 節 | 縄文時代早期の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・104 |
| | | | K-Ah降灰以降の遺構と遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・118 |
| 第 | 11 | 節 | その他の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118 |
| 第V | • | | 自然科学分析の成果 |
| | | | 目 的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・133 |
| | | | テフラ分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・133 |
| 第 | 3 | 節 | 植物珪酸体分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・134 |
| | | | まとめ |
| | | | 後期旧石器時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138 |
| 第 | 2 | 節 | 縄文時代早期 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・139 |
| 44 | 2 | 俖 | 改仕時代の海嫌と海伽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ |

| | 挿図目次 | | | | 34 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別 |
|---|------|---|--------------------------|---|----|---|------------------------------|
| 第 | 1 | 図 | 東九州自動車道 (日向~都農間) | | | | 石材別分布図 (4) ・・・・・・・・40 |
| | | | 関連遺跡位置図・・・・・・・・2 | 第 | 35 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器接合状況図 ・・・41 |
| 第 | 2 | 図 | 周辺遺跡分布図・・・・・・・・5 | 第 | 36 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (1) ・・・・42 |
| 第 | 3 | 図 | 遺跡周辺地形図・・・・・・・・7 | 第 | 37 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (2) ・・・・43 |
| 第 | 4 | 図 | グリッド配置図・・・・・・・・7 | 第 | 38 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (3) ・・・・44 |
| 第 | 5 | 図 | 先行トレンチ配置図 | 第 | 39 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (4) ・・45、46 |
| | | | 尾立第2遺跡との関連図・・・・・・8 | 第 | 40 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (5) ・・・・47 |
| 第 | 6 | 図 | 俵石第 1 遺跡基本土層図 ・・・・・・10 | 第 | 41 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (6) ・・・・48 |
| 第 | 7 | 図 | 土層断面図作成位置図 ・・・・・13 | 第 | 42 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (7) ・・・・49 |
| 第 | 8 | 図 | 土層断面図 (1)・・・・・・・・13 | 第 | 43 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (8) ・・・・50 |
| 第 | 9 | 図 | 土層断面図 (2)・・・・・・・14 | 第 | 44 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (9) ・・・・51 |
| 第 | 10 | 図 | 土層断面図 (3)・・・・・・・・15 | 第 | 45 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (10) ・・・52 |
| 第 | 11 | 図 | 土層断面図 (4)・・・・・・・16 | 第 | 46 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図 (11) ・・・53 |
| 第 | 12 | 図 | 土層断面図 (5)・・・・・・・・17 | 第 | 47 | 図 | 後期旧石器時代IV期礫群分布図 ・・・・・55 |
| 第 | 13 | 図 | 土層断面図 (6)・・・・・・・18 | 第 | 48 | 図 | 後期旧石器時代IV期礫群実測図 (1) ・・・・56 |
| 第 | 14 | 図 | 後期旧石器時代 I 期石器分布図 ・・・・19 | 第 | 49 | 図 | 後期旧石器時代Ⅳ期礫群実測図 (2) ・・・・57 |
| 第 | 15 | 図 | 後期旧石器時代 I 期石器実測図 ・・・・20 | 第 | 50 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器器種別 |
| 第 | 16 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期礫群分布図 ・・・・21 | | | | 石材別分布図 (1) ・・・・・・・・58 |
| 第 | 17 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期礫群実測図 ・・・・22 | 第 | 51 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器器種別 |
| 第 | 18 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石材分布図 ・・・・23 | | | | 石材別分布図 (2) ・・・・・・・・59 |
| 第 | 19 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器・器種別分布図 ・24 | 第 | 52 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器接合状況図 ・・・60 |
| 第 | 20 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器接合状況図・・・ 25 | 第 | 53 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ・Ⅳ期石器分布図 ・・・61 |
| 第 | 21 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (1)・・・・26 | 第 | 54 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (1) ・・・・62 |
| 第 | 22 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (2)・・・・27 | 第 | 55 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (2) ・・・・63 |
| 第 | 23 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (3)・・・・28 | 第 | 56 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (3) ・・・・64 |
| 第 | 24 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (4)・・・・29 | 第 | 57 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (4) ・・・・65 |
| 第 | 25 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (5)・・・・30 | 第 | 58 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (5) ・・・・66 |
| 第 | 26 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (6)・・・・31 | 第 | 59 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (6) ・・・・67 |
| 第 | 27 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (7)・・・32 | 第 | 60 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (7) ・・・・68 |
| 第 | 28 | 図 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (8)・・・・33 | 第 | 61 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (8) ・・69、70 |
| 第 | 29 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期礫群分布図 ・・・・35 | 第 | 62 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (9) ・・・・71 |
| 第 | 30 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期礫群実測図 ・・・・36 | 第 | 63 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (10) ・・・72 |
| 第 | 31 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別 | 第 | 64 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (11) ・・・73 |
| | | | 石材別分布図 (1)・・・・・・・・ 37 | 第 | 65 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (12) ・・・74 |
| 第 | 32 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別 | 第 | 66 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (13) ・・・75 |
| | | | 石材別分布図 (2)・・・・・・・・ 38 | 第 | 67 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (14) ・・・76 |
| 第 | 33 | 図 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別 | 第 | 68 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (15) ・・・77 |
| | | | 石材別分布図 (3)・・・・・・・・39 | 第 | 69 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (16) ・・・78 |

| 第 | 70 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (17) · 79、80 | 第 105 図 | 縄文時代早期石器実測図 (2) ・・・・・117 |
|---|-----|---|------------------------------|---------|---------------------------|
| 第 | 71 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (18) ・・・81 | 第 106 図 | K-Ah 降灰以降の遺構分布図 ・・・・・119 |
| 第 | 72 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (19) ・・・82 | 第 107 図 | K-Ah 降灰以降の遺構実測図 ・・・・・119 |
| 第 | 73 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (20) ・・・83 | 第 108 図 | 自然遺構実測図 (1)・・・・・・・120 |
| 第 | 74 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (21) ・・・84 | 第 109 図 | 自然遺構実測図 (2)・・・・・・・121 |
| 第 | 75 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (22) ・・・85 | 第 110 図 | K-Ah 降灰以降の土器・石器実測図 ・・・122 |
| 第 | 76 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (23) ・・・86 | 第 111 図 | テフラの岩石学的諸特性 (1) ・・・・・ 135 |
| 第 | 77 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (24) ・・・87 | 第 112 図 | テフラの岩石学的諸特性 (2) ・・・・・ 135 |
| 第 | 78 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (25) ・・・88 | 第 113 図 | テフラの岩石学的諸特性 (3) ・・・・・ 135 |
| 第 | 79 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (26) ・・・ 89 | 第 114 図 | 植物珪酸体分析結果 ・・・・・・・137 |
| 第 | 80 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (27) ・・・90 | 第 115 図 | 植物珪酸体 (プラント・オパール)・・・ 137 |
| 第 | 81 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (28) ・・・91 | | |
| 第 | 82 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (29) ・・・92 | | ± DM. |
| 第 | 83 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (30) ・・・93 | | 表目次 |
| 第 | 84 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (31) ・・・94 | 第 1 表 | 東九州自動車道 (日向~都農間) |
| 第 | 85 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (32) ・・・95 | | 関連遺跡一覧・・・・・・・・3 |
| 第 | 86 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (33) ・・・96 | 第 2 表 | 石器・石材分類表 ・・・・・・・12 |
| 第 | 87 | 図 | 後期旧石器時代IV期石器実測図 (34) ・・・97 | 第 3 表 | 後期旧石器時代Ⅱ期礫群計測表 ・・・・ 123 |
| 第 | 88 | 図 | 後期旧石器時代V期石器器種別 | 第 4 表 | 後期旧石器時代Ⅲ期礫群計測表・・・・123 |
| | | | 石材別分布図 ・・・・・・・・・98 | 第 5 表 | 後期旧石器時代IV期礫群計測表・・・・123 |
| 第 | 89 | 図 | 後期旧石器時代V期石器実測図 (1)・・・・99 | 第 6 表 | 土坑計測表・・・・・・・・・123 |
| 第 | 90 | 図 | 後期旧石器時代V期石器実測図 (2)・・・ 100 | 第 7 表 | 後期旧石器時代 I 期石器計測表・・・・124 |
| 第 | 91 | 図 | 後期旧石器時代 V 期及び I ~ IV 期 | 第 8 表 | 後期旧石器時代Ⅱ期石器計測表・・・・124 |
| | | | 石器実測図 (1)・・・・・・・・ 101 | 第 9 表 | 後期旧石器時代Ⅲ期石器計測表・・・・125 |
| 第 | 92 | 図 | 後期旧石器時代 V 期及び I ~ IV 期 | 第 10 表 | 後期旧石器時代IV期石器計測表・・・・127 |
| | | | 石器実測図 (2)・・・・・・・・102 | 第 11 表 | 後期旧石器時代V期石器計測表・・・・130 |
| 第 | 93 | 図 | 後期旧石器時代∨期及び I ~Ⅳ期 | 第 12 表 | 後期旧石器時代 I ~IV期石器計測表・・・130 |
| | | | 石器実測図 (3)・・・・・・・・103 | 第 13 表 | 縄文土器観察表・・・・・・・131 |
| 第 | 94 | 図 | 縄文時代早期土坑分布図・・・・ 104、105 | 第 14 表 | 縄文時代早期石器計測表・・・・・・131 |
| 第 | 95 | 図 | 縄文時代早期ピット分布図・・・・ 104、105 | 第 15 表 | 弥生土器観察表・・・・・・・・132 |
| 第 | 96 | 図 | 縄文時代早期土坑実測図 (1)・・・・・ 108 | 第 16 表 | K-Ah 以降石器計測表 ・・・・・・132 |
| 第 | 97 | 図 | 縄文時代早期土坑実測図 (2)・・・・・ 109 | 第 17 表 | 出土石器器種別一覧表・・・・・・132 |
| 第 | 98 | 図 | 縄文時代早期土坑実測図 (3)・・・・・ 110 | 第 18 表 | 検出テフラとその組成・・・・・・134 |
| 第 | 99 | 図 | 縄文時代早期土坑実測図 (4)・・・・・ 111 | 第 19 表 | テフラ分析結果・・・・・・・・136 |
| 第 | 100 | 図 | 縄文時代早期土坑実測図 (5)・・・・・112 | 第 20 表 | 植物珪酸体分析結果・・・・・・・137 |
| 第 | 101 | 図 | 縄文時代早期土坑実測図 (6)・・・・・ 113 | | |
| 第 | 102 | 図 | 縄文時代早期土坑実測図 (7) ・・・・・ 114 | | |
| 第 | 103 | 図 | 縄文時代早期土坑実測図 (8)・・・・・ 115 | | |
| 第 | 104 | 図 | 縄文時代早期土坑実測図 (1)・・・・・ 116 | | |

| 図版目次 | 図版5・・・・・・・・・・・145 |
|---------------------------|---|
| | 陥し穴状遺構の列群 [SC 36・37・41・43] |
| 巻頭図版 1 俵石第 1 遺跡から日向灘を望む | S C 29 完掘状況 |
| 俵石第1遺跡から荒崎山を望む | S C 30 完掘状況 |
| 巻頭図版 2 俵石第 1 遺跡の基本土層 | S C 41 完掘状況 |
| SC 22 杭痕跡半截状況 | 散礫検出状況 |
| 礫群(S I 13)Ⅲ層 | 図版 6 ・・・・・・・・・・・・146 |
| 礫群 (SI 17) VI層 | SA1完掘状況 |
| 縄文時代早期の陥し穴状遺構(SC6) | S C 22 完掘状況 |
| 巻頭図版 3 第122層出土の水晶製石核・剥片 | S Z 1 (風倒木痕) 半截状況 |
| 第IV層出土の石器(細石刃・細石刃核) | A区土坑・小穴群完掘状況(F7Gr~G7Gr) |
| 巻頭図版 4 縄文時代早期の土器 | 自然流路 (水穴) 検出状況 (F4Gr) |
| 縄文時代早期の石器 | 礫層(XI層)の巨礫 |
| 図版 1 ・・・・・・・・・・・・141 | 自然流路 (水穴) 完掘状況 (F 5 Gr) |
| VI層出土の石器集中区 [I 7 Gr 付近] | 作業風景(2009年7月) |
| VI層面検出の礫群の広がり [K 8 Gr 付近] | 図版 7・・・・・・・・・・・・・147 |
| 図版 2 ・・・・・・・・・・・142 | 第IX層出土石器 |
| 礫群[SI14][SI15] | 第四層出土石器①(ナイフ形石器・スクレイパー) |
| 礫群[SI6][SI8] | 図版 8・・・・・・・・・・・・148 |
| 礫群[SI9][SI10] | 第Ш層出土石器② (石核) |
| 礫群[SI12][SI16] | 第四層出土石器③ (阿蘇溶結凝灰岩製剥片) |
| 図版3・・・・・・・143 | 図版 9 ・・・・・・・・・・・149 |
| 礫群[SI11] | 第VI層出土石器①(ナイフ形石器・台形石器) |
| 礫群[SI17] | 第VI層出土石器② (角錐状石器・剥片尖頭器) |
| 礫群[SI18] | 図版 10 ・・・・・・・・・・・150 |
| 石器出土状況(Vb層) | 第VI層出土石器③(石核) |
| 石器集中区(I 9 Gr V b 層) | 第V層出土石器①(ナイフ形石器) |
| 尾根線上に連なる俵石(巨礫)群 | 図版 11 ・・・・・・・・・・・151 |
| 炭化材集中区(J7Gr Vb層) | 第V層出土石器②(ナイフ形石器) |
| 作業風景(2009年2月) | 第V層出土石器③ (ナイフ形石器・角錐状石器) |
| 図版4 ・・・・・・・・・・・144 | 図版 12 ・・・・・・・・・・・・152 |
| 縄文時代早期の遺構検出状況 | 第V層出土石器④ (ナイフ形石器・台形石器等) |
| R C 2 完掘状況 | 第V層出土石器⑤ (石核) 図版 13 ・・・・・・・・・・・・153 |
| | 第V層出土石器⑥ (二次加工剥片等) |
| SC2と周辺の小穴群の土層 | 第V層出土石器② (二次加工約万 等) 第V層出土石器② (流紋岩・凝灰岩製剥片) |
| 小穴群[SH15・16]の土層 | 第 V 層山工石器(J (((() () () () () () () () |
| SC6(右) 完掘状況 | 旧石器時代の出土層不明遺物① |
| 焼土を含む土坑 [S C 45] | 旧石器時代の出土層不明遺物② |
| SC6(右)とSC 22(左)の切合い | 四年命时八少四土眉个的鬼物色 |

第 I 章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

県文化財課は、平成17年度に東九州自動車道(日向~都農間)19.7㎞について、32遺跡306,700㎡の分布調査結果を提示した。その後、当該区間は、平成17年度末までに関係市町との設計協議等が終了し、平成18年度末には用地買収に着手している。この間、当区間の平成26年度供用開始が公表され、用地取得及びそれに続く埋蔵文化財調査にとって時間的に厳しい状況となった。また、平成19年11月には発掘調査対象面積の見直しがなされ、暫定2車線261,400㎡と面積が減っている。

東九州自動車道関連としては初の『埋蔵文化財 発掘調査協定書』が平成20年7月1日西日本高 速道路株式会社九州支社長と県知事との間で締結 された。この協定書では、発掘調査の範囲や体制、 全体の実施計画、費用の概算額等が提示された。 その後、用地の取得状況が進展しないながらも同 年10月17日付けで『埋蔵文化財発掘調査委託 契約』を結び、着手できる可能性がある 10 遺跡 3,350㎡の発掘調査に着手した。 俵石第1遺跡は、 この時点で比較的広い面積が確保できていたた め、平成20年11月4日にまずA区3,500㎡を 対象に調査に着手した。その後、順次用地の取得 が進んだため、さらに B 区、C 区 9.000㎡につい て調査を進め、平成21年11月2日に調査除外 となった 1.055㎡を含む 12.500㎡の調査を終了し た。その間、平成21年1月には、用地取得や文 化財調査の進展を条件に平成25年度の供用開始 が努力目標となったが、関係者の努力により平成 22年10月末現在、32遺跡中15遺跡は完全に調 査を終了、未着手は3遺跡を残すのみとなってい る。

第2節 調査の組織

俵石第1遺跡の発掘調査・整理報告は以下 の組織で実施した。

調査主体

宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

(平成20年度)

所 長 福永 展幸 加藤 吾郎 副所長 兼総務課長 長友 英詞 主幹兼総務担当リーダー 高山 正信 調査第一課長 長津 宗重 主幹兼調査第二担当リーダー 菅付 和樹

調査担当

調査第二担当

 主查
 横山 正文

 主任主事
 今塩屋毅行

 主事
 日高 優子

(平成21年度)

所 長 福永 展幸 副所長兼総務課長 長友 英詞 主幹兼総務担当リーダー 高山 正信 調査第一課長 長津 宗重 主幹兼調査第二担当リーダー 菅付 和樹 調査担当

調査第二担当

 主査
 横山 正文

 主任主事
 今塩屋毅行

 主事
 日高 優子

整理担当

調查第二担当

 主查
 横山 正文

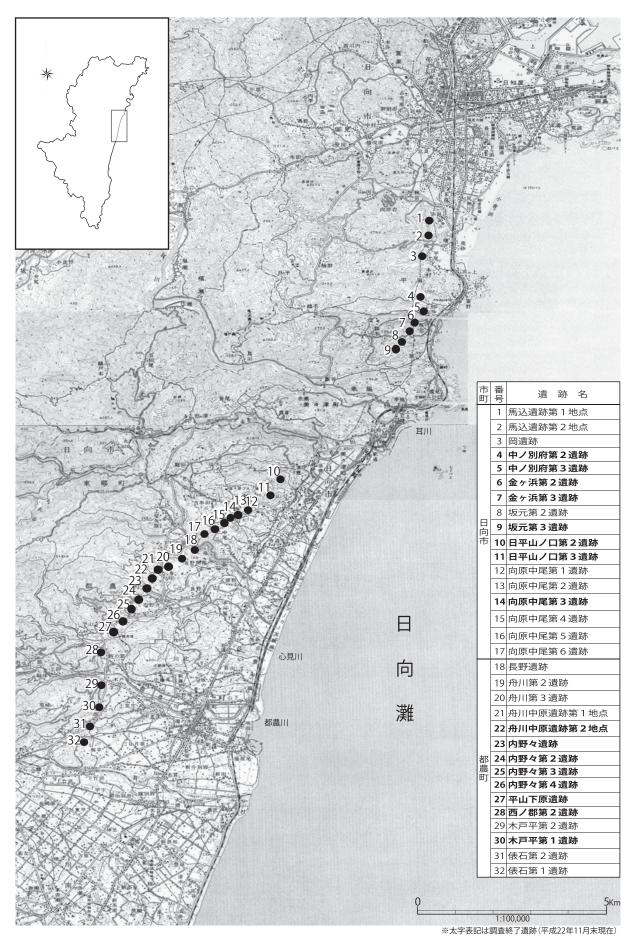
 主事
 日高 優子

(平成22年度)

所長森 隆茂副所長北郷 泰道総務課長矢野 雅紀副主幹兼総務担当リーダー長友由美子調査第一課長長津 宗重主幹兼調査第二担当リーダー菅付 和樹

整理担当

調査第二担当



第1図 東九州自動車道(日向~都農間)関連遺跡位置図

| 市町 | 番号 | 遺跡名 | 所 在 地 | 遺跡面積 (㎡) | 調査面積 (㎡) | 年度 | 種別 | 主な遺構・遺物の時代 | 調査期間 |
|----|-----|------------------|--|----------|-----------------------|----------------------------|----------------------------------|----------------------------|---|
| | | 馬込遺跡第1地点 | 日向市大字平岩字馬込・字清水 | 7,900 | 130 | | 1次 | _ | H22.5.17 H22.5.21 |
| | | | ノ元 | | | | | | |
| | 2 | 馬込遺跡第2地点 | 日向市大字平岩字馬込 | 1,800 | | | | | |
| | 3 | 岡遺跡 | 日向市大字平岩字岡・字谷口・字三拾歩・字平尾 | 40,000 | 1,870 | 21 21 22 22 22 | 1次 2次 3次 4次 5次 6次 | 縄文[晚]、弥生、古代 <i>,</i> 近世 | H22.1.14-H22.1.15 H22.2.16-H22.2.18 H22.3.10-H22.3.11 H22.6.7-H22.6.8 H22.6.7-H22.6.9 H22.7.7- |
| | 4 | 中ノ別府第2遺跡 | 日向市大字平岩字コウ地 | 200 | 3,160 60 | 22 | 7次 1次 | _ | H22.7.20- H21.12.16 |
| | | 中ノ別府第3遺跡 | 日向市大字平岩字ミコノ子 | 1,900 | | 22 | 1次 | _ | H22.9.29 |
| | 6 | 金ヶ浜第2遺跡 | 日向市大字平岩字金ヶ浜・字加原 | 300 | 10 | 21 22 | 1次 2次 | 旧石器、縄文、古墳以降 | H21.12.15 H22.5.25 |
| 日向 | 7 | 金ヶ浜第3遺跡 | 日向市大字平岩字加原 | 200 | 16 | 21 22 | 1次 2次 | _ | H21.12.15 H22.11.1 |
| 市 | 8 | 坂元第2遺跡 | 日向市大字平岩字ナガソ・字中高 鳥 | 2,000 | | 21 | 1次2次 | _ | H21.12.14 H22.5.26 |
| | 9 | 坂元第3遺跡 | 日向市大字平岩字中高鳥 | 200 | | 21 22 | 1次2次 | _ | H21.12.14 H22.9.30 |
| | | 日平山ノ口第2遺跡 | 日向市東郷町山陰字日平 | 1,600 | 25 | 20 | 県調査分 | _ | H20.11.5-H20.11.10 |
| | 11 | 日平山ノ口第3遺跡 | 日向市東郷町山陰字日平 | 4,300 | | 20 | 県調査分 | | H21.3.4-H21.3.19 |
| | 12 | 向原中尾第1遺跡 | 日向市東郷町山陰字山ノ口 | 9,300 | 140 960 | | 2次 | 旧石器、縄文[晚]、弥 生、古墳、近世 | H20.12.16-H21.1.6 H22.6.21- |
| | 13 | 向原中尾第2遺跡 | 日向市東郷町山陰字山ノ口 | 2,400 | 120 1,200 | | 1次 2次 | 旧石器、弥生 | H22.6.21-H22.7.6 H22.9.8- |
| | 14 | 向原中尾第3遺跡 | 日向市東郷町山陰字山ノ口・ 字向ヲ原 | 6,500 | 280 | 20 | 1次 | 弥生、古墳 | H20.12.2-H20.12.15 |
| | 15 | 向原中尾第4遺跡 | 日向市東郷町山陰字向ヲ原 | 11,000 | 190 60 5,100 | 21 | 1次 2次 3次 | 旧石器、縄文[早] | H20.11.17-H20.12.1 H21.8.5-H21.8.31 H22.4.26- |
| | 16 | 向原中尾第5遺跡 | 日向市東郷町山陰字向ヲ原 | 2,100 | | 20 | | 弥生、古墳 | H20.11.17-H20.12.1 |
| | 17 | 向原中尾第6遺跡 | 日向市東郷町山陰字向ヲ原 | 2,300 | | | | | |
| П | 18 | 長野遺跡 | | 8,400 | | | | 弥生 | |
| | 19 | 舟川第2遺跡 | 都農町大字川北字境谷・字舟川 | 10,600 | 270 3,000 1,400 | 21 | 1次 2次 3次 | 旧石器、縄文[早] | H21.8.5-H21.9.9 H21.10.26-H22.3.12 H22.4.14-H22.8.20 |
| | 20 | 舟川第3遺跡 | 都農町大字川北字舟川 | 16,800 | 360 | 22 | 1次 | 縄文[晩]、弥生 | H22.5.6-H22.5.28 |
| | 21 | 舟川中原遺跡第1地点 | 都農町大字川北字舟川中原 | 2,600 | 15 | 22 | 1次 | 旧石器、縄文[早] | H22.4.20-H22.4.21 |
| | 22 | 舟川中原遺跡第2地点 | 都農町大字川北字舟川中原・字船 川尾立 | 5,000 | | 20 21 | 1次2次 | 旧石器、縄文、近世 | H21.1.15-H21.1.27 H21.9.8-H21.9.10 |
| | 23 | 内野々遺跡 | 都農町大字川北字内野後原・字西 | 14,700 | 4,700 20 | 21 22 | 1次 2次 | | H21.6.5-H22.1.7 H22.4.23-H22.4.26 |
| | 2/1 | 内野々第2遺跡 | 尾立・字榎谷 都農町大字川北字内野後原 | 6 300 | 10 | 20 | | 生 旧石器、縄文[早・後] | H21.1.13-H21.1.14 |
| 都 | | | | 6,300 | 1,410 | i | 1次 | | H21.12.7-H22.1.25 H22.5.17-H22.5.24 |
| 農 | | | 都農町大字川北字西尾立 | 2,700 | 280 20 | 22 | 1次県調査分 | 縄文、弥生、古墳 旧石器、縄文 [早・前]、 | *** |
| 町 | 26 | 内野々第4遺跡 ————— | 都農町大字川北字宮原 ———————————————————————————————————— | 2,200 | 900 | | 1次 | 弥生、古墳 | H21.5.11-H22.1.7 |
| | 27 | 平山下原遺跡 | 都農町大字川北字下原・字寺下 | 18,900 | 400 6,680 910 | 21 | 1次 2次 3次 | 旧石器、縄文[早] | H20.11.25-H20.12.12 H21.6.8-H22.2.8 H22.5.24-H22.7.23 |
| | 28 | 西ノ郡第2遺跡 | 都農町大字川北字西ノ郡 | 18,800 | 150 520 | | 1次 | 旧石器 | H20.11.17-H20.11.21 H21.1.28-H21.2.2 H21.7.16-H21.8.4 |
| | 29 | 木戸平第2遺跡 | 都農町大字川北字木戸ノ平 | 8,400 | | 20 21 21 | 1次 | 旧石器、縄文[早]、弥生 | H21.1.6-H21.1.14 H21.7.13-H21.9.2 H21.10.13-H22.1.18 H22.10.12- |
| | 30 | 木戸平第1遺跡 | 都農町大字川北字木戸ノ平・字 荒崎平・字馬場口・字瓜生尾立 | 29,500 | 500 | 20 | 1次 2次 | 旧石器 | H20.12.15-H20.12.25 H21.7.1-H21.7.15 |
| | 31 | 俵石第2遺跡 | 都農町大字川北字俵石 | 10,000 | 60 | 21 | 1次 2次 | 旧石器、縄文[早] | H21.6.16-H21.7.14 H22.4.12- |
| | 32 | 俵石第1遺跡 | 都農町大字川北字湯牟田 | 12,500 | 2,445 9,000 830 | 21 | 1次 | 旧石器、縄文[早]、弥生 | H20.11.4-H21.3.31 H21.4.1-H21.11.2 H22.11.1- |

第1表 東九州自動車道(日向~都農間)関連遺跡一覧

第Ⅱ章 遺跡をとりまく環境

第1節 地理的環境

俵石第1遺跡は、都農町大字川北字湯牟田 に所在する。遺跡が立地する都農町は、宮崎県 中央部よりやや北側、宮崎平野の北端に位置する。

町の北西には九州脊梁山脈から続く山々が連なり、標高 1405.2 mの尾鈴山がそびえている。

これまで幾度となく繰り返された海進や海 退のたびに、尾鈴連山から流れ出る名貫川や都 農川、心見川によって次々と新しい扇状地がつ くられていった。新しい扇状地は古い扇状地を 開析し、そこにまた新しい砂礫を堆積させるこ とによって新しい扇状地と古い扇状地の間に 段差が生じ、数段の河岸段丘が形成され、現在 の地形となっている。

遺跡は、名貫川の左岸台地上標高約82mに位置し、南北に細長く延びた調査区を広域農道(尾鈴サンロード)に切られる。遺跡南端は尾立第2遺跡と接し、確認された遺構・遺物から両遺跡は同時期に存在した可能性があることが推測される。

第2節 歷史的環境

俵石第1遺跡がある都農町内には、遺跡詳細分布調査によって多くの遺跡が周知されているが、発掘調査による遺跡の解明はほとんど行われていなかった。しかし、平成17年度以降、東九州自動車道建設に伴う発掘調査が進み多くの成果をあげてきた。

【旧石器時代】

本遺跡は、名貫川を境に隣町の川南町に近接する。近年までは、都農町内で旧石器時代の発掘調査は行われていなかった。しかし、東九州自動車道建設に伴う発掘調査が進む中、立野第5遺跡、立野第2遺跡、尾立第2遺跡、尾立第3遺跡、朝草原遺跡と、周囲の遺跡から旧石器時代の遺構・遺物が確認されるようになった。

【縄文時代】

縄文時代になると、遺跡が高地に立地する傾向が見られるようになる。河川やその支流に近い台地上に遺跡が立地し、周辺の尾立第2、第3遺跡でも遺構・遺物が確認されており、そのほとんどが早期に位置付けられている。

【弥生時代】

弥生時代になると都農町内の遺跡も数多く確認されている。境ヶ谷第1遺跡(岩山遺跡)、新別府下原遺跡、森遺跡、白水遺跡等があり、なかでも新別府下原遺跡では、竪穴住居2軒や土壙1基が検出され、1号住居跡から磨製石庖丁1点、両端抉入石庖丁1点、砥石1点、磨石4点、鉄鎌片が出土し、注目を集めた。

【古墳時代】

都農町内には海岸部に県指定古墳が12基ある。前方後円墳2基、円墳10基で、すべて積石塚である。積石塚は名貫川や海岸に多く見られる大小の石を積み上げて墳丘にしたものであり、県内ではあまり見られず、都農町に集中している。

【古代以降】

古代においては、『倭名類聚鈔』による「都 農郷」、『延喜式』による日向国6牧中の「都農牧」 に、日向国16駅の「去飛駅」の記述が認めら れるが、それと関連づけられる遺跡は未発見で ある。

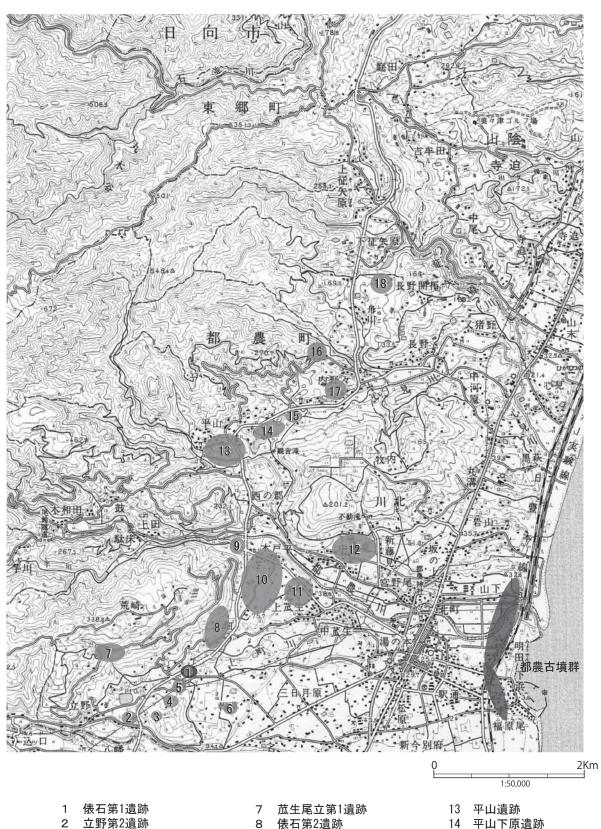
近世に入ると都農町は、御城下高鍋町と藩港 美々津との中間点にあり、宿駅中宿としての地 位を占めていたため、藩は本町に野別府代官所 を設置し、周辺数ヶ村の掌握に当たるなど藩施 政上の拠点であった。「高鍋藩の都農町」すな わち、藩取立ての在郷町としての性格を有して いた。

また、藩財政の最重要財源であった石河内尾 鈴の豊富な山林資源と、川北川南一帯の広汎な 未開拓丘陵原野をもっており、そこから産出さ れる林業生産物の集荷中心地でもあった。

【引用参考文献】

都農町 1998「都農町史(通史編)」 宮崎県埋蔵文化財センター 2008「尾立第2遺跡」『宮崎

県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第 169 集 宮崎県埋蔵文化財センター 2007「立野第 5・第 2 遺跡」 『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第 156 集



- 立野第5遺跡 3 4 尾立第3遺跡 尾立第2遺跡 5
- 朝草原遺跡 6

- 8 俵石第2遺跡 木戸平第2遺跡 9
- 10 馬場口遺跡
- 11 鹿牟田遺跡 12 京塚遺跡
- 14 平山下原遺跡
- 15 内野々第4遺跡
- 16 内野々遺跡
- 17 内野遺跡
- 18 舟川第2遺跡

第2図 周辺遺跡分布図

第Ⅲ章 調査の経過と方針

第1節 発掘調査の経過

調査区の面積は、12,500㎡で便宜上3つに区分し、それぞれA区、B区、C区とした。

平成 20 年 11 月 4 日~平成 21 年 11 月 2 日 の調査は、A区→B区→C区の順で行った。

A区の調査では、9つの先行トレンチを入れ 土層の堆積状況や遺構・遺物の疎密、調査区の 傾斜等について人力での掘削調査を行った。そ の結果、調査区北東部に向かって緩やかな谷地 形が確認され、遺構・遺物は土坑1基、剥片数 点が検出されたのみであった。

11月4日から6日までの3日間、層の残存状況を確認しながら重機による表土除去を行った。

K-Ah(Ⅱ層)上面を精査したところ、水穴や流路痕、風倒木痕、弥生土器の小片を含む竪穴建物跡が検出された。11月10日より作業員を投入し、包含層の掘削を行う。Ⅲ層~Ⅳ層で陥し穴状遺構、Ⅳ層~IX層で多数の石器が確認された。

B区の調査は平成21年2月20日より調査の都合上B区北側、B区斜面地、B区平坦部に分けて調査を行った。5か所に先行トレンチを設定し、人力での掘削を行った。調査区西側に向かって下る斜面では表土除去後すぐに礫層となり、調査区のほぼ中央に位置する平坦部では、石器群が検出された。そこで、中央平坦部を中心に尾根筋に沿ってグリッドごとに包含層掘削を行った。

B区北側では、Ⅱ層までを、南側ではⅠ層を 重機で除去し、その後人力掘削による調査を 行った。Ⅲ~Ⅳ層は全面調査を行い、Ⅷ層以下 はトレンチ調査を行った。

B区斜面地は重機により表土を除去した後、 Ⅲ~Ⅵ層まで人力によるトレンチ調査を行った。調査中にトレンチ内に水穴が確認されたために調査を打ち切った個所もあった。

B区平坦部については、地形と先行トレンチの結果から包含層が残存しないと判断されたことから、重機による遺構確認のみの調査を行った。層ごとに掘削したが、遺構等は確認されなかった。

平成21年3月2日よりB区の調査と並行してC区橋脚部分の調査を開始した。先行トレンチ調査により、礫群と思われる遺構が数基検出された。表土を重機で除去したところ、IV層まではほとんど残存していなかった。人力掘削によりV~VI層までを全面調査し、VII層以下はトレンチ調査を行った。

各調査区、包含層内より出土した遺物については電子平板による取り上げを行った。また、遺構についても同様に、電子平板による検出位置の記録を行った。

調査の結果、IV層~IX層より後期旧石器時代、 縄文時代早期、弥生時代の遺構・遺物が確認された。検出された遺構は、原則として1/10の 縮尺で図化を行い、写真撮影等の記録を進めた。

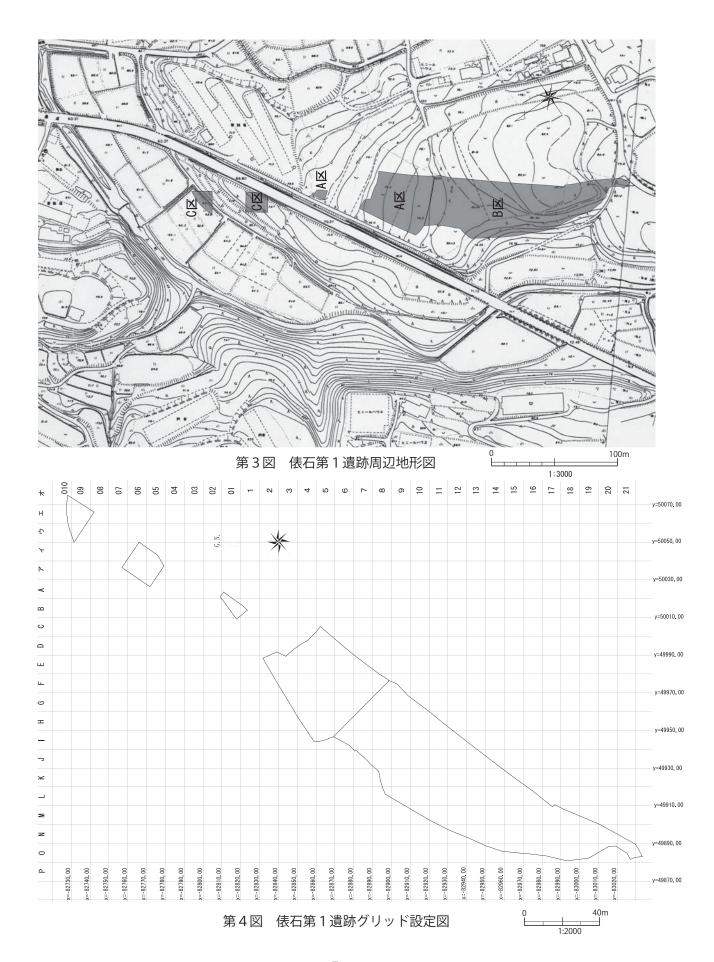
第2節 整理作業の経過

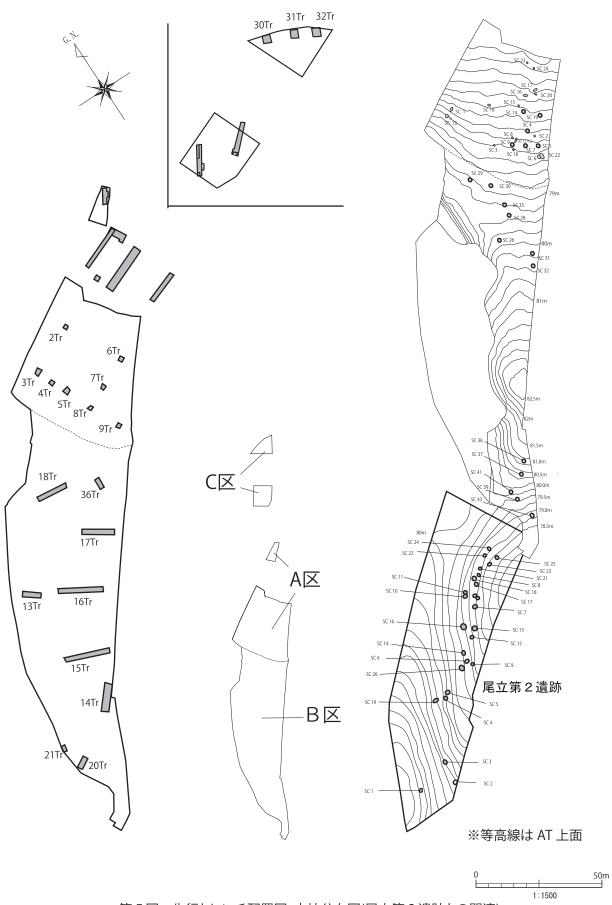
整理作業は、平成21年11月2日から宮崎 県埋蔵文化財センター本館内で開始し、水洗、 注記、計測、接合、実測、製図を経て、平成 22年11月に終了した。

石器は、接合作業を行いながら、色調、手触りを重視して石材を分類した。黒曜石については、肉眼による分類を行うとともに、明治大学の協力により、蛍光X線分析による産地推定を行った。

石器の実測は、石鏃、ナイフ形石器、細石刃核、接合資料等剥離が細かいもの、あるいは技術や時間を要するものについては業者に委託し、残りはセンターで実測した。

礫の整理は水洗、注記、計測、接合の各作業を実施した。計測は礫の法量、重量、石材の他に、礫に残された付着物、赤化、破損状況などを記録した。





第5図 先行トレンチ配置図・土坑分布図(尾立第2遺跡との関連)



整理作業風景 1 (石器接合作業)

第3節 教育普及活動

東九州自動車道建設工事に伴う埋蔵文化財発 掘調査では、地域の貴重な埋蔵文化財を広く地 域住民に還元するという観点から教育普及活動 を行っている。

本遺跡では、21年度に2回の教育普及活動 (発掘体験活動)を実施した。

- ①平成 21 年 6 月 29 日 都農町立都農南小学校の 6 年生児童 38 名
- ②平成21年8月26日 宮崎県内の公立学校初任者教諭15名



整理作業風景 2 (礫接合作業)



教育普及活動 1 (発掘体験)



整理作業風景 3 (データ入力等)



教育普及活動 2 (発掘体験)

第IV章 調査の記録

第1節 基本層序

基本層序を設定するにあたって、G7Grの 南西壁を土層観察用の壁面として利用した(巻頭図版 2)。土層は、土質により $I \sim XI$ 層までの層に分層した。各層の詳細は次項に示している。

尾根部分に当たるH Gr \sim J Gr (B区)では、 I \sim XI 層まで層厚の差はあるものの、全体的 に良好な堆積状況であった。B区は尾根部分から南西に細長く延びた調査区で、H 10Gr までは緩やかに上っており、そこからN 20Gr に向けて下る地形となっている。K 14Gr 周辺は、畑に利用されていたということもあり、I 層以下IV層までは残存していなかった。また、V層以下の層厚も薄く、30cmほど掘り下げると礫層が検出された。

L 14GrからN 20Grに下る斜面は、防風林 として杉が植栽されていたため、各層の堆積は 確認されたものの、根による攪乱を受けていた。

なお、東九州自動車道(都農~西都間)の調 査では、宮崎平野部で認められるテフラやロー ム層、黒色帯に共通の略称を用いている。第6 図に示したMB0やML1等がこの略称にあたる。ただし、本遺跡が所在する都農町は宮崎平野の北端にあたり、共通認識としてとらえられてきた宮崎平野部の基本層序にそぐわないことも確認されてきている。

宮崎県埋蔵文化財センター『東九州自動車道(都農~西都間) 関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書VI』2006

| | ı | | | | | |
|-------|-------------------------------|--------------------------|-------------------|--|--|--|
| | 耕作土 | | | | | |
| I | 黒色 | ボク) | | | | |
| I | 黄褐色砂質土 鬼界アカホヤ火山灰(K — Ah) | | | | | |
| Ш | Ⅲ 黒色土(MBO) | | | | | |
| IV | 暗褐色土(M L 1 」 | 上部相当) | 桜島薩摩 (S z - S) | | | |
| V a | 黒褐色土(M L 1 T | 霧島小林 | | | | |
| V b | 黒褐色土(M L 1 ⁻ | 下部相当) | (K r - K b) | | | |
| VI | VI 明褐色土(M L 2 相当) | | | | | |
| VII | | 明黄褐色砂質土 姶良Tn火山灰(AT) | | | | |
| VII a | 黒色土 | N | M B 2相当 | | | |
| VII b | 明褐色粘質土 | 始良深港(A-Fm) 姶良大塚(A-Ot) | | | | |
| IX | 赤褐色粘質土 | | | | | |
| X | | | | | | |
| XI | | | | | | |

第6図 俵石第1遺跡基本土層図

【基本層序】

表土 (耕作土)

I層 : 黒色土(Hue7.5YR1.7/1)

調査区全体としては残りが良くない。 B区南面で一部確認された。しまり、

粘性ともに弱い。クロボク

Ⅱ層 : 黄褐色砂質土

鬼界アカホヤ火山灰(K - Ah)

しまり、粘性共に弱い。粗粒でざらざ

らしている。

Ⅲ層 : 黒色十. (Hue10YR2/1)

しまり、粘性ともに弱い。いわゆる

MBO である。 遺物包含層

IV層 : 暗褐色土 (Hue10YR3/1)

しまりはやや強く、粘性がある。ML1

上部に相当する。

遺構検出層・遺物包含層

Va層: 黒褐色土(Hue10YR3/2)

しまり、粘性ともに強い。Vb層に比 ベ黒味が強い。ML1下部に相当する。

遺構検出層・遺物包含層

V b 層 : 黒褐色土 (Hue10YR3/2)

しまり、粘性ともに強い。Va層に比 べ黄味が強い。 ML1 下部に相当する。

遺構検出層・遺物包含層

VI層 : 明黄褐色土 (Hue10YR6/6)

AT 由来の白い粒子を含む。しまりは強 いが、粘性は弱い。ML2 に相当する。

遺物包含層

VII層 : 明黄褐色砂質土 (Hue10YR6/8)

1 mm 大のオレンジ粒子を多く含む。 粗粒でざらざらしていて粘性が非常に

弱い。姶良 Tn 火山灰。

WII層 : 明褐色粘質土 (Hue7.5YR5/8)

> A T由来の白い粒子を含む。しま りはやや強く、粘性は強い。小礫 を含む。遺構検出層・遺物包含層

IX層 : 暗赤褐色粘質土(Hue5YR3/6)

しまり、粘性ともに強い。ML3

に相当する。遺物包含層

X層 : 赤褐色粘質土 (Hue5YR4/8)

しまり粘性ともに強い。

XI層: にぶい黄橙色(Hue10YR6/4)

巨礫を含み、しまり、粘性ともに

強い。礫層。

【尾立第2遺跡の基本層序との対比】

| 尾立第2遺 | 跡 | | 俵石第1遺跡 | |
|--------|---------------------------------------|-----|-------------|--|
| I層 | | | 耕作土 | |
| Ⅱ層 | クロ | ボク | I層 | |
| Ⅲ a•b層 | K- | -Ah | Ⅱ層 | |
| IV層 | M | В 0 | Ⅲ層 | |
| V層 | ML | 1上 | Ⅳ層 | |
| VIa層 | MI | 1 下 | Va層 | |
| VIb層 | ML1下 | | Vb層 | |
| Ma層 | MD | D 1 | | |
| Wb層 | MB1 | | | |
| VIIc層 | M | L 2 | VI層 | |
| Ⅷa•b層 | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | | Ⅵ層 | |
| Χа層 | M | B 2 | · WIa層 | |
| Xb層 | M | В 3 | VⅢ d /官 | |
| _ | | | Ⅷb層 | |
| X層 | M | L 3 | IX層 | |
| XI層 | | | X層 | |
| X II層 | | | XI層 | |

【土層堆積時の環境推定】

俵石第1遺跡の発掘調査では、Ⅲ層~Ⅵ層、 Ⅷ層、Ⅸ層から遺物が出土した。そこで、各層 当時の周囲の植生や環境を把握する目的で、テ フラ分析や植物珪酸体分析等を委託した。ここ では、その結果について各層ごとに概要を示し た。詳細な分析結果は第V章にて掲載している。

[基本層序と自然科学分析結果の関係]

IV層: 桜島薩摩テフラ (Sz-S, 約 1.28 万年前) が検出された。

V層:霧島小林テフラ (Kr-Kb, 約 1.67 万年前) が検出された。

VI層: VI a 層中に姶良 Tn 火山灰 (AT, 約 2.6 ~ 2.9 万年前) に由来するテフラ粒子 が含まれていると考えられる。

四層:上・中層には、始良深港テフラ(A-Fm,約3.1万年前)や姶良大塚テフラ(A-Ot,約3.25万年前)に由来するテフラ粒子が含まれていると考えられる。

™層上部の堆積当時は、ササ属(おもにミヤコザサ節)を主体としたイネ科植生と考えられるが、IX層の時期よりもササ属(おもにミヤコザサ節)が多く生育し、メダケ属(ネザサ節)もみられたと推定される。また、少量ながらメダケ属(ネザサ節)もみられることから、当時はIX層の時期よりも相対的にやや温暖な気候であった可能性が考えられる。

ササ属などの笹類は、1年を通して常緑なので遺跡周辺に豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要と考えられる。

なお、 「四層の堆積年代を把握するために、 植物珪酸体による放射性炭素年代測定を実施したが、 従来の測定値よりも新しい年代が得られている。

IX層: ササ属(おもにミヤコザサ節)を主体 としてキビ族やウシクサ族なども見られ るイネ科植生であったと考えられ、周辺 には何らかの樹木(広葉樹)が生育して いたと推定される。当時は寒冷で積雪(降 水量)の少ない比較的乾燥した環境であ ったと考えられる。

第2節 石材の分類基準

石器石材は、色調や礫面の特徴、手触り、風 化の状況及び隣接遺跡である尾立第2遺跡の分 類基準を参考にして分類を行った。各石材の同 定にあたっては、松本 茂氏の協力を得て、横 山が決定した。

石材名称については、尾立第2遺跡の分類基準を参考に名称を付した。

黒曜石は、肉眼により観察される情報により 分類を行い、それをもとに蛍光X線分析による 黒曜石産地推定分析を行った。その分析結果か ら得られた石材の特徴を採用して最終的な石材 産地の推定を行った。

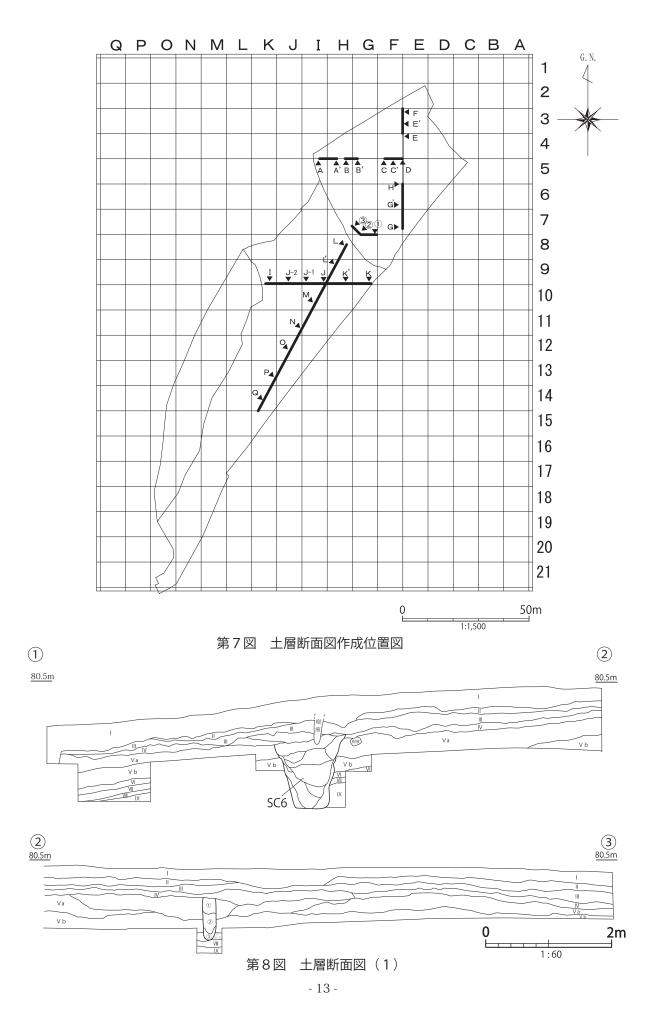
分析および検討の結果、黒曜石1類は人吉桑 ノ木津留群、黒曜石2類は大口日東群、黒曜石 3類は樋脇上牛鼻群、黒曜石4類は腰岳産、黒曜石5類は姫島産と推定された。

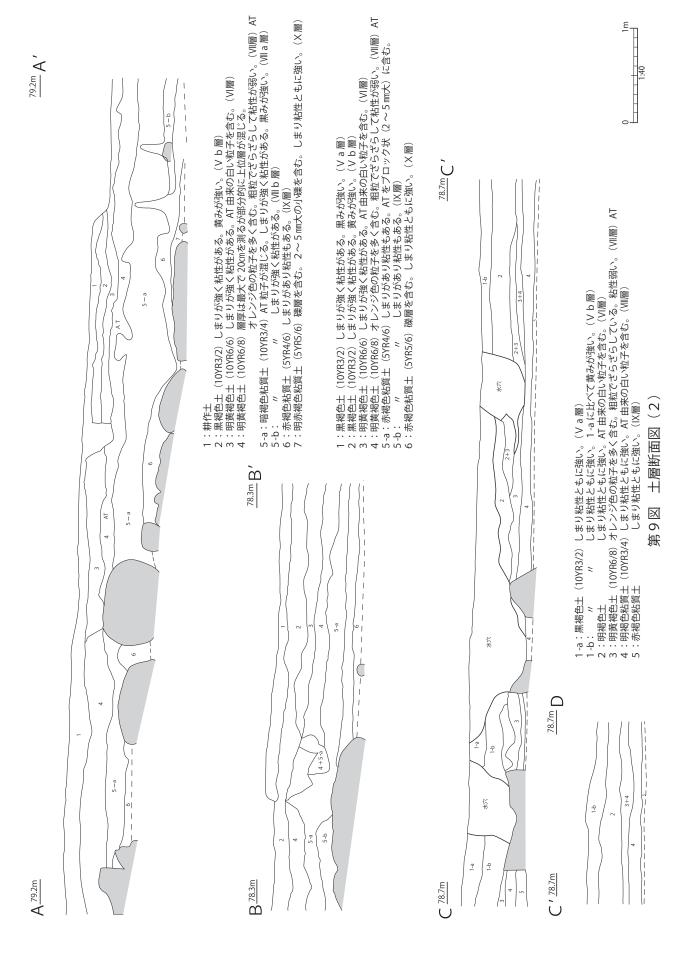
また、分析の結果データベース上にはなく、 産地不明または測定不可のものについては、1 ~5類のいずれにも属さないものとして6類と した。

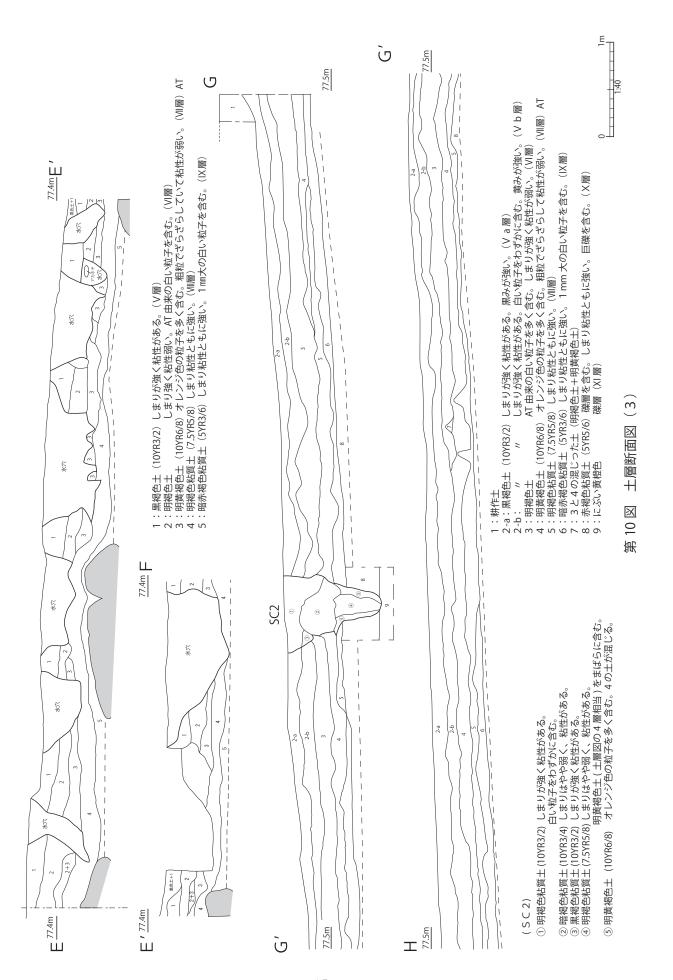
尾立第2遺跡で『尾立第20X群』と名称づけられた黒曜石との関連も検討した結果、色調や礫面の特徴、手触りだけでの判断となったため断定はできないが、『尾立第20X群』と思われるものも確認された。

| 石材名 | 石材の特徴 |
|---------|--|
| | 白色に風化し、ツヤがあるもの、粉を吹くもの等パリエーションがある。 |
| NINAT-I | 黒色を呈し、新鮮面は黒色緻密。礫面は滑らか。 |
| | 黒色でツヤがあるものと灰白色班が混ざるものとがある。礫面は滑らかである。 |
| ホルンフェルス | 風化面が黄色で、粉を吹いたかのような状態になっているもの。 |
| | 風化面が灰色あるいは白色であり、粉を吹いたかのような状態になっているもの。 |
| 羅灰岩 | 表面はざらついていて黄褐色を呈し、1mm~5mm大の粒を含む。 |
| 頁岩 | 黒灰色を中心とし、薄い層状に剥離する。 |
| チャート | 青、白、赤等カラーバリエーションが多い。無光沢のものも存在する。 |
| 水晶 | 無色透明で光沢がある。石英の中でも特に透明度が高いもの。 |
| 姯 | 黄褐色から黄土色を呈し、肉眼で砂粒が確認できるもの。 |
| 19日 | 青灰色を呈する。礫面は滑らかで重量がある。 |
| 尾鈴山酸性岩類 | 新鮮面は灰白色を呈し、白色に風化する。 |
| 阿蘇溶結凝灰岩 | 表面はざらついていてチョコレート色。オレンジ色の不純物を含む。 |
| 黒曜石1類 | 透過性が高く飴色を呈する。わずかに不純物を含むものもある。(人吉桑/木津留群) |
| 黒曜石2類 | 黒色で透過性が低い。不純物を多く含む。(大口日東群) |
| 黒曜石3類 | 全面が風化し、光沢がない。新鮮面は黒色。(樋脇上牛鼻群) |
| 黒曜石4類 | 漆黒色で透過性がない。(腰岳) |
| 黒曜石 5 類 | 乳白色を呈し、1 mm以下の赤い粒子が認められる。(姫島) |
| 黒曜石6類 | 1類~5類に属さず、産地不明または判別不可及び『尾立第20X群』と思われるもの。 |

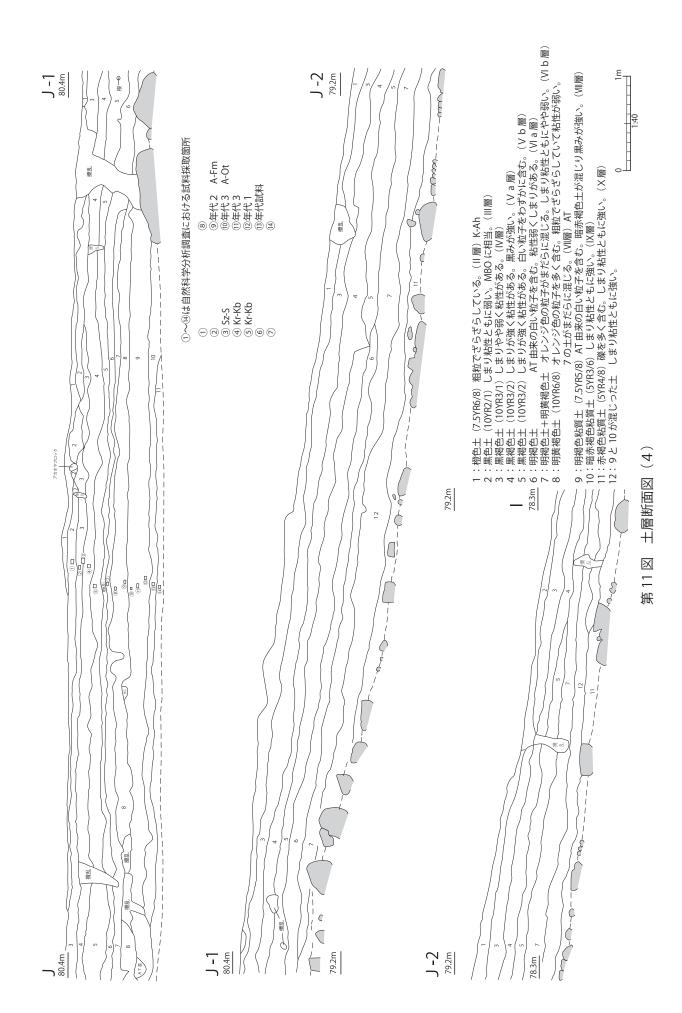
第2表 石器・石材分類表



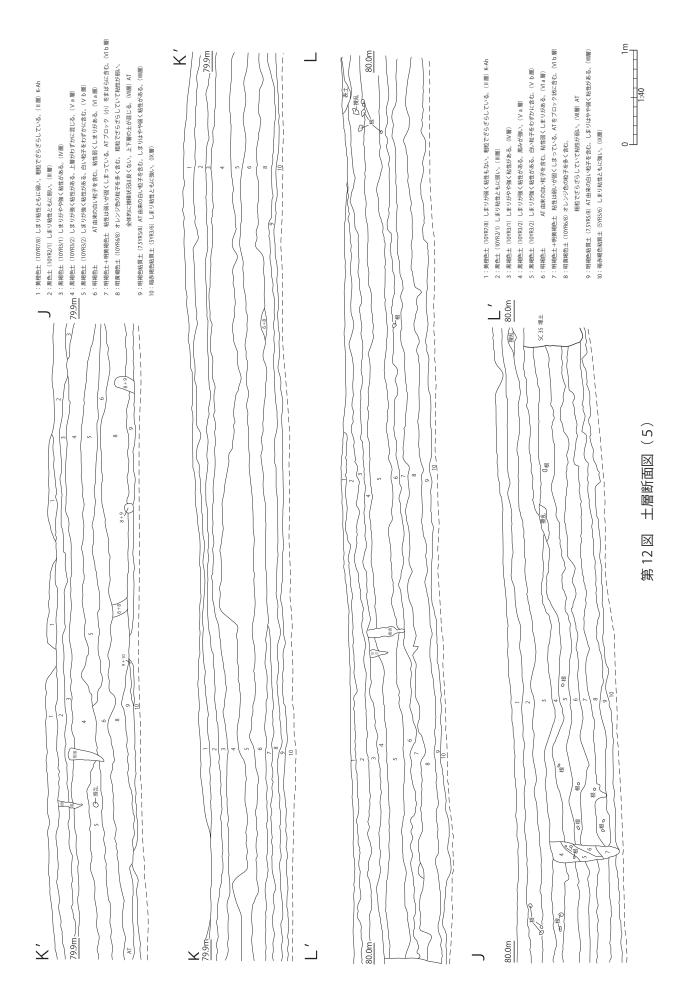




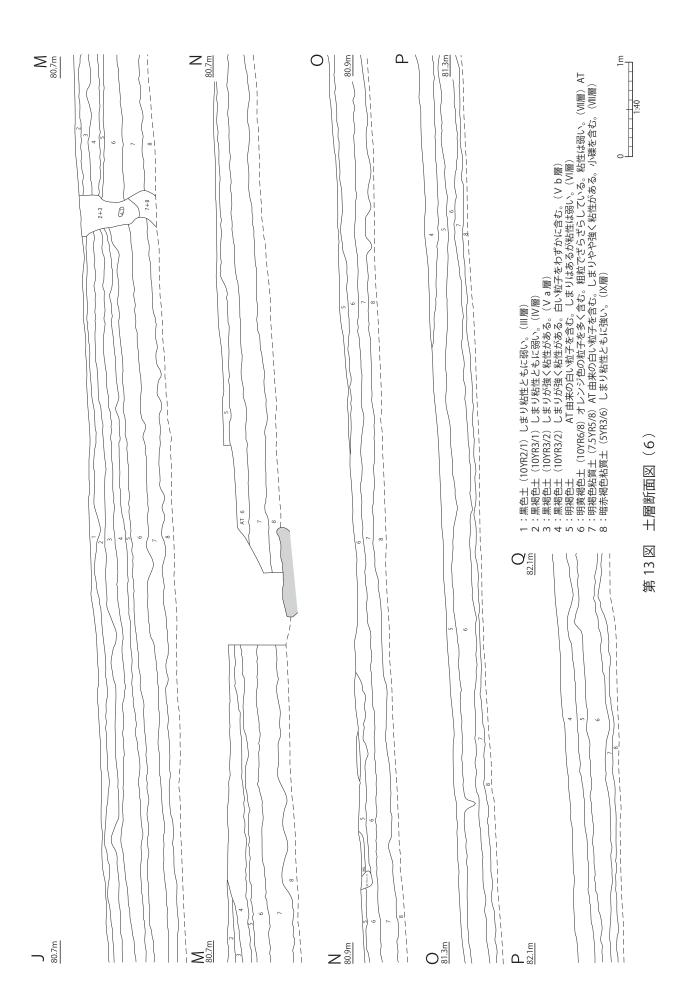
- 15 -



- 16 -



- 17 -



- 18 -

第3節 後期旧石器時代文化層の認識

本報告書では、後期旧石器時代の時代細分について以下のように取り扱った。

I期

AT (M層) 下位のIX層から出土した石器。AT 直下のM層とは遺物量や出土した石材に違いがみられること、遺構が検出されなかったことから I 期とした。

Ⅱ期

AT 下位の哑層から出土した石器。 I 期では出土しなかったナイフ形石器や削器、掻器など製品が出土していること、他の層では見られない石材(阿蘇溶結凝灰岩)が出土していることからⅡ期とした。

Ⅲ期

AT 上位のVI層から出土した石器。Ⅱ期では見られなかった角錐状石器や剥片尖頭器が出土したことからⅢ期とした。

IV期

V層から出土した石器。I~Ⅲ期と比べ、遺構・遺物が格段に多く確認された。出土した遺物の様相がⅢ期のそれと異なっていることからIV期とした。

V期

IV層で出土した石器。主に細石刃や細石刃核が出土したことから、V期(細石刃文化期)とした。

第 4 節 後期旧石器時代 I 期 概要

基本層序のIX層(ML 3 相当)で出土した遺物を主体とする文化期を後期旧石器時代 I 期として報告する。

礫群や土坑といった遺構は確認されていない。 上層のⅧ層とでは石器の器種と石材で相違がみ られたため I 期とした。

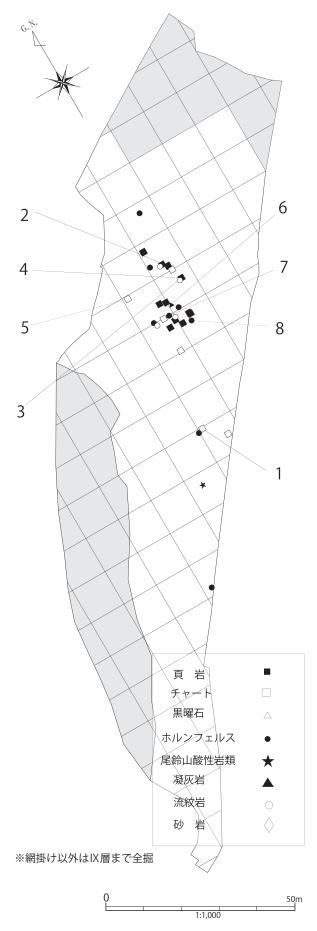
また、I期の調査はグリッドを四分割し、遺構・遺物の検出・出土状況を確認しながら拡張していく方法で調査したため、調査区全面の調査は行っていない。

石器の分布

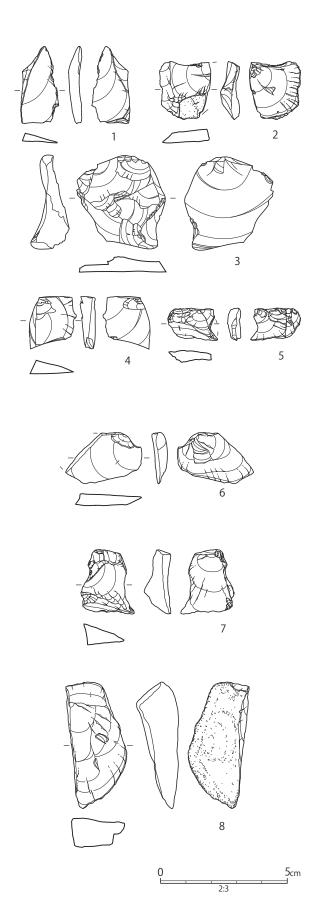
チャートや頁岩、ホルンフェルスなどの剥片が出土している。石器の分布は H9 Gr、I9 Gr の丘陵尾根線上から H6 Gr 方向へ北側に広がる緩斜面に分布している。

石器

1、5はチャート製の剥片である。2、3は 頁岩製の剥片である。4はガラス質流紋岩製の 剥片である。6は凝灰岩製の剥片である。7、 8 Gr はホルンフェルス製の剥片である。主に H 7 Gr~I 12 Grを中心として出土しているが、 特に加工を施された形跡は見当たらなかった。



第14図 後期旧石器時代 | 期石器分布図



第15図 後期旧石器時代 | 期石器実測図

第 5 節 後期旧石器時代Ⅱ期 概要

基本層序の哑層で出土した石器を中心とする 遺物を主体とした文化期を後期旧石器時代Ⅱ期 として報告する。遺構は礫群4基が検出された。 遺物はナイフ形石器をはじめ削器、掻器、石核、 二次加工剥片と、多様な器種が出土している。

また、Ⅱ期の調査もグリッドを四分割し、遺構・ 遺物の検出・出土状況を確認しながら拡張して いく方法で調査したため、調査区全面の調査は 行っていない。

遺構の分布

調査区A・B区の南側からK15GrにSI 14、K14GrにSI15、I8GrにSI13、H 6GrにSI5が位置している。なお、C区では 検出されなかった。

礫群はH9Gr付近を最高所として、北側に向けて延伸する丘陵尾根上に点々と位置しており、密集するあり方ではない。構成礫は他の文化期と同様に尾鈴山酸性岩類である。

礫群の構造は、S I 14 (K 15 Gr)・S I 15 (K 14Gr) のように規模は小さいが礫は密集するものと、S I 5・S I 13 のように大きいが散在するという形態上の違いがある。

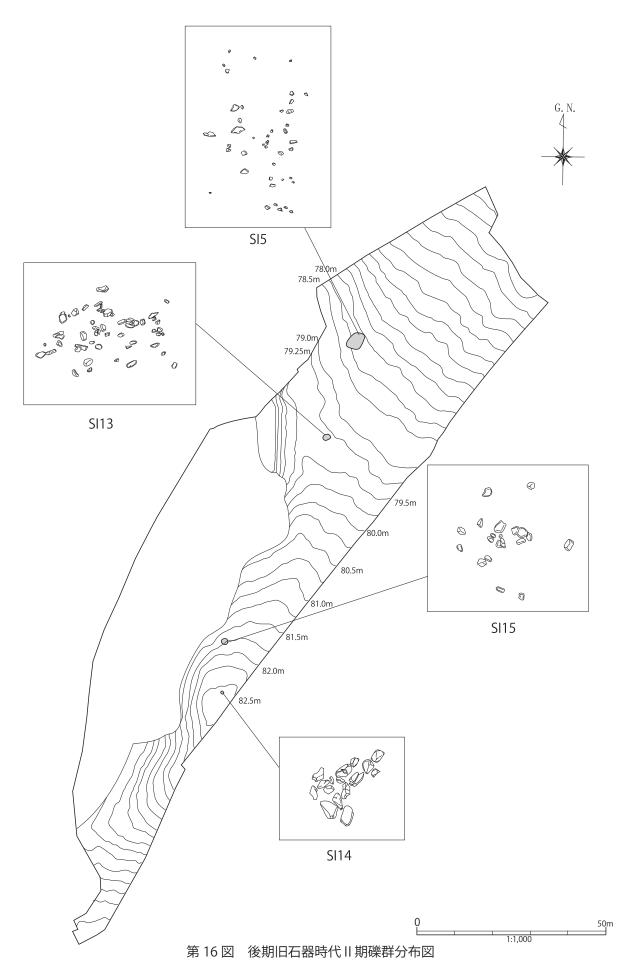
石器の分布

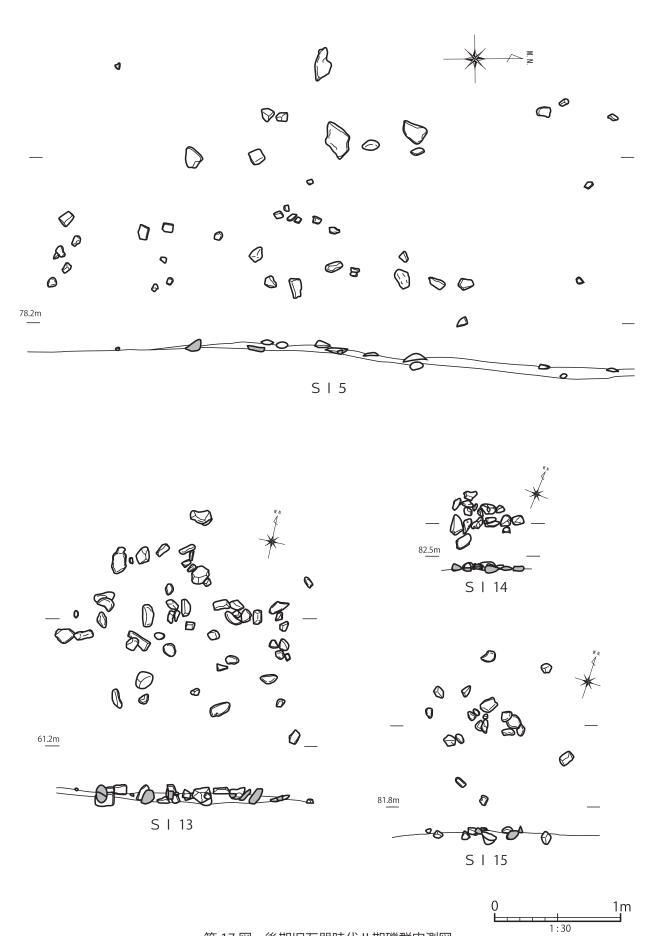
I7・8 Gr、J7・8 Grの4 Grを中心に集中して出土しており、I期同様丘陵尾根線上に分布している。多様な器種、石材が出土しているが、他の文化層では確認されなかった阿蘇溶桔凝灰岩の剥片が、Ⅷ層でのみまとまって出土した。

また、水晶製のナイフ形石器や多くの剥片が I8GrとJ8Grで集中して出土している。

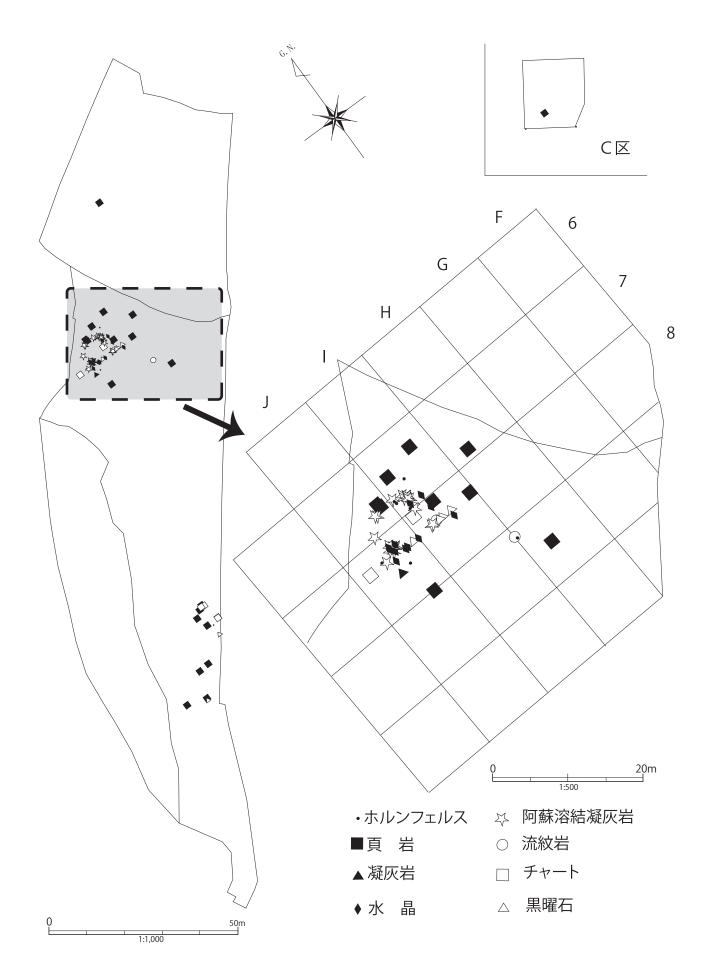
石器

ナイフ形石器 $(9 \sim 14)$ のうち、9、11、12、14 が頁岩製で9、12 は正面左側縁に加工が施されている。11 は左側縁に細かな加工が施されており、右側基部にも二次加工が入る。14 は二側縁加工である。

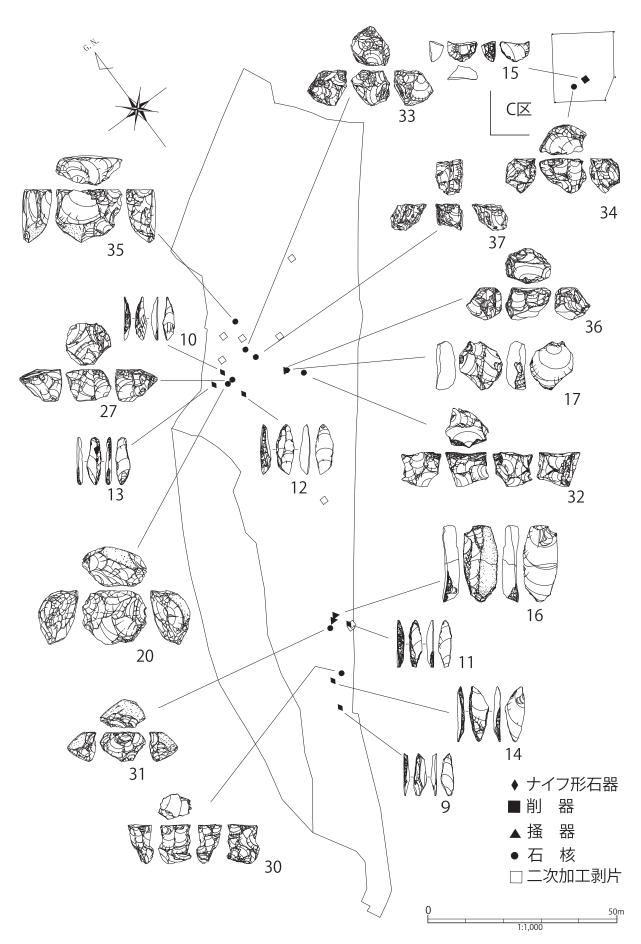




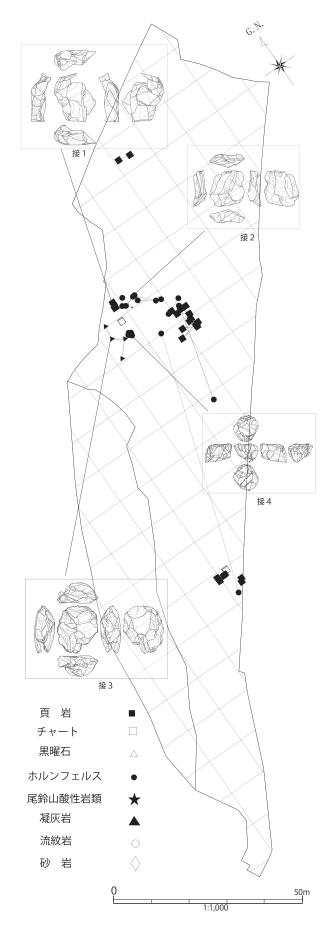
第 17 図 後期旧石器時代Ⅱ期礫群実測図



第 18 図 後期旧石器時代 || 期石材分布図



第19図 後期旧石器時代 II 期石器・器種別分布図



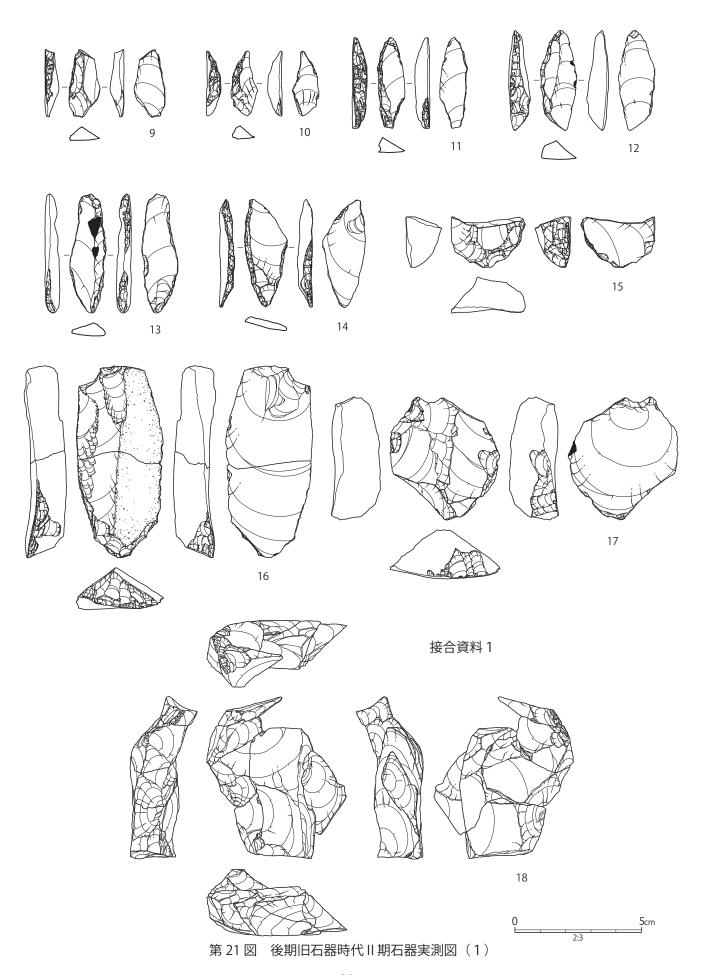
第20図 後期旧石器時代Ⅱ期石器接合状況図

15 は頁岩製の削器である。16 は頁岩製、17 は流紋岩製の掻器である。16 は正面に礫面を残し、左側縁から下端部にかけて加工を施している。17 は下端部に加工が認められる。

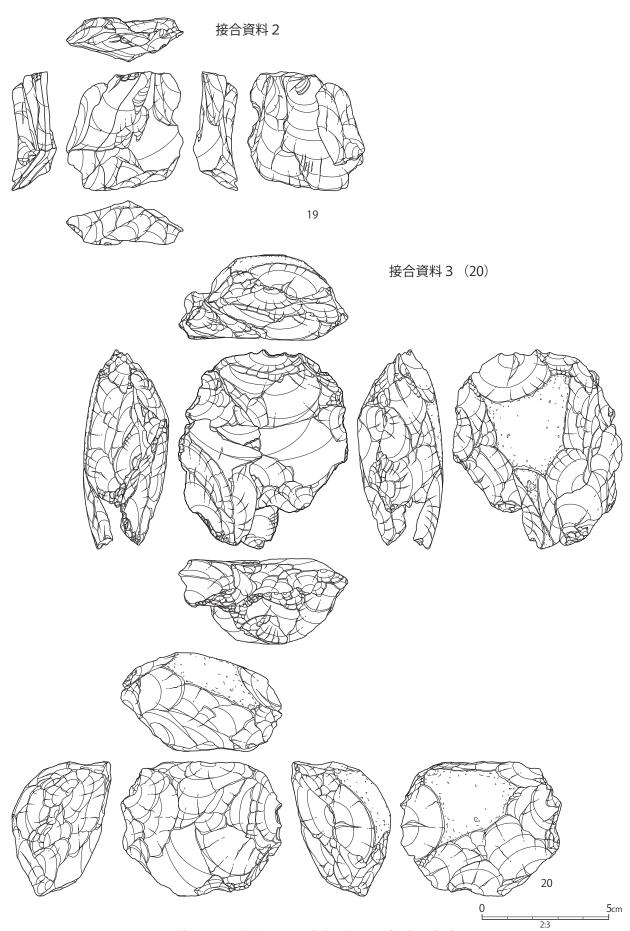
18 は頁岩製の接合資料 1 である。19 はホルンフェルス製の接合資料 2 である。20 は接合資料 3 に接合する凝灰岩製の石核である。21 ~26、28 は接合資料 4 に接合するホルンフェルス製の剥片である。27 はその石核である。29 は頁岩製の二次加工剥片であり、右側縁部に加工が施されている。30~35 は頁岩製の石核である。36 はホルンフェルス製、37 は水晶製の石核である。

38、40、44、47~54、56、57 は頁岩製の 剥片である。39、41~43、45、46は頁岩製 の二次加工剥片である。39 は両側縁に加工が 見られる。41、43、46は右側縁、42、45は 左側縁に二次加工が施されている。49は取上 番号 4060 と 4063 が接合したものである。53 は取上番号 4205 と 4210 が接合したものであ る。51、52、54、56 は正面に礫面が残存して いる。55、58~60はガラス質流紋岩の剥片 である。 $61 \sim 65$ はチャート製の剥片である。 61、62、64、65 は正面に礫面が残存している。 63 は二次加工が施されている。66~70 はホ ルンフェルス製の剥片である。70 は正面に礫 面が残存しており、取上番号 3871 と 3879 が 接合したものである。71~86、88は阿蘇溶 結凝灰岩製の剥片である。この石材は隣接する 尾立第2遺跡では確認されておらず、本遺跡の Ⅷ層のみで確認されている。87 は黒曜石の剥 片であり、正面に礫面を残す。89~98は水晶 製の剥片であり、89は右側縁に二次加工が施 されている。94は正面に礫面を残す。

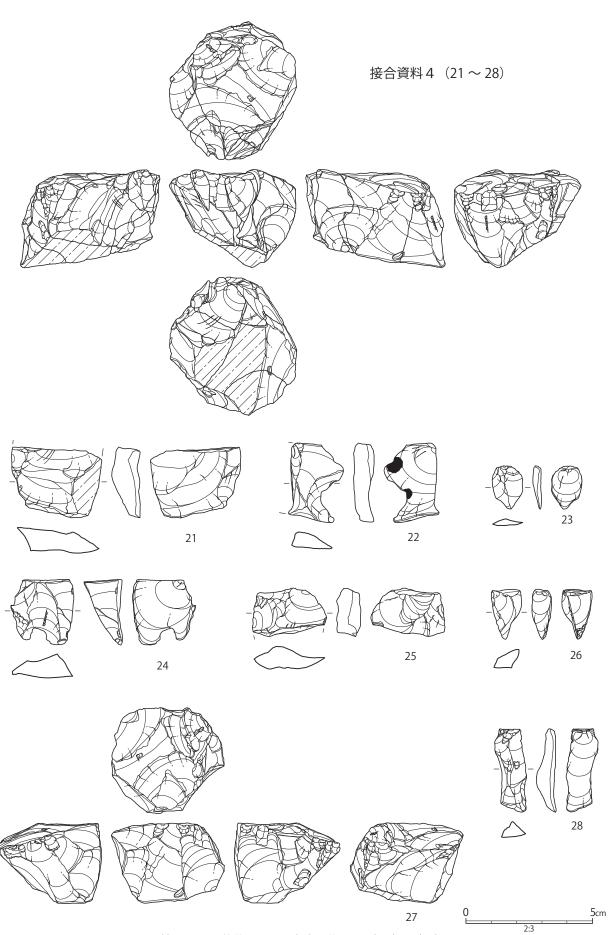
99 は下端部に敲打痕を残す尾鈴山酸性岩類製の敲石である。



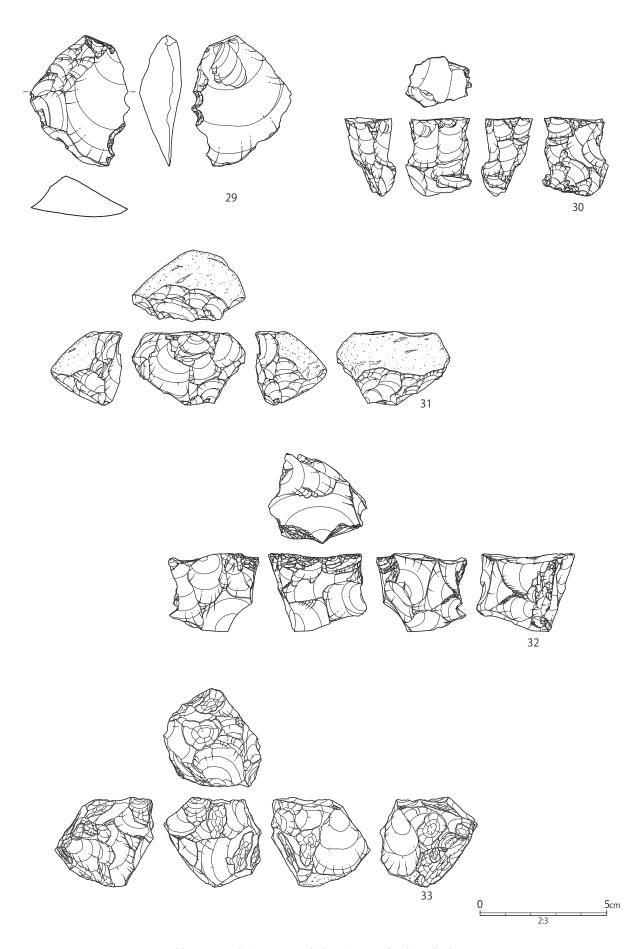
- 26 -



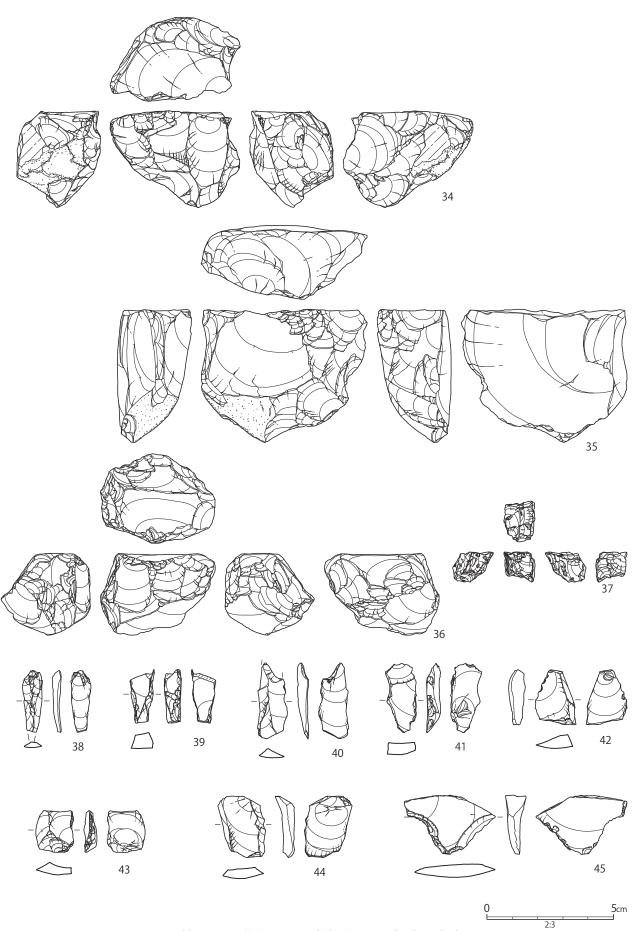
第22図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(2)



第23図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(3)



第24図 後期旧石器時代 II 期石器実測図(4)

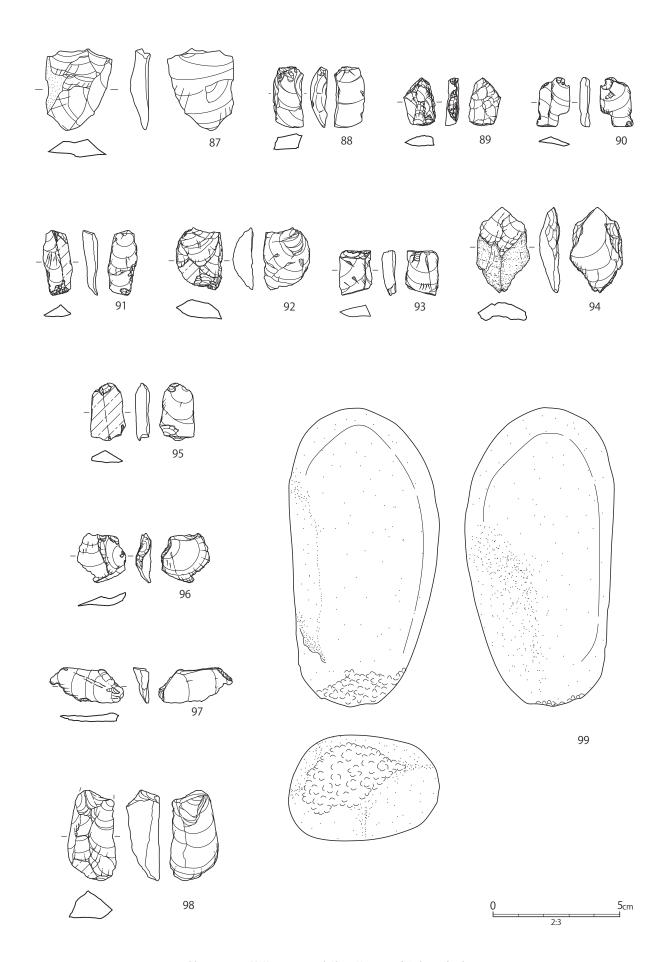


第25図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(5)





第27図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図(7)



第28図 後期旧石器時代 II 期石器実測図(8)

第 6 節 後期旧石器時代Ⅲ期 概要

基本層序のVI層で出土した石器を中心とする 遺物を主体とした文化期を後期旧石器時代Ⅲ期 として報告する。遺構は礫群9基が検出された。 遺物はナイフ形石器をはじめ、台形石器、角錐 状石器、剥片尖頭器と他の文化期と比較しても 多様な器種が出土した。中でも角錐状石器はⅢ 期のみで確認されている。

遺構の分布

調査区A・B区の南側からL16GrにSI7・ 16、L15GrにSI12、K13GrにSI10、 I8GrにSI6・8、I7GrにSI9、C区で SI19・20がある。後期旧石器時代II期に比 べて格段に基数が増加している。

このうち、A・B区の礫群はL 16Gr 付近の 丘陵尾根頂部付近にSI 7・12・16の一群、 北側にやや離れてSI 10、I 7・8 Gr 付近の 平坦な空間にSI 6・8・9の一群という分布 の差を見いだせる。後期旧石器時代II期の礫群 と同様の立地を示すが、3基で一群を形成する ようである。

礫群はSI7・8のように、長軸径1 m前後の規模で礫の密集した構造が多い。一方、C区のSI19・20はA・B区の礫群と異なり、規模は小さく、構成礫も少ない。また、大きめの礫1個を配する特徴がある。

石器の分布

Ⅲ期の石器は、調査区全体に分布している。中でも丘陵尾根線上の平坦部である I 7 Gr に集中して出土している。製品のみならず剥片や砕片もこの I 7 Gr で多く出土していることから、石器製作の場であった可能性も考えられる。

石材としては頁岩や流紋岩、チャート、ホルンフェルス等多種にわたるが、 I ~Ⅱ期にはほとんど見られなかった凝灰岩製の石器が見られるようになったことがⅢ期の特徴といえる。

石器

 $100 \sim 112$ はナイフ形石器である。102、は 黒曜石製で、105 はホルンフェルス製、112 は チャート製、その他はすべて頁岩製である。

113~115は台形石器である。113は黒曜

石製、114、115 は頁岩製であり両側縁に加工が施されている。

116~120は角錐状石器である。116、117は頁岩製、118はホルンフェルス製、119は凝灰岩製、120は尾鈴山酸性岩類製で取上番号637と1099が接合したものである。

121から127は剥片尖頭器である。121、122、127は凝灰岩製で123、124はホルンフェルス製である。125は流紋岩製で、126は砂岩製である。127については右側縁部全体に細かな加工が施されている。

128 は頁岩製の掻器である。縦長剥片を素材とし、剥片末端に二次加工を施している。

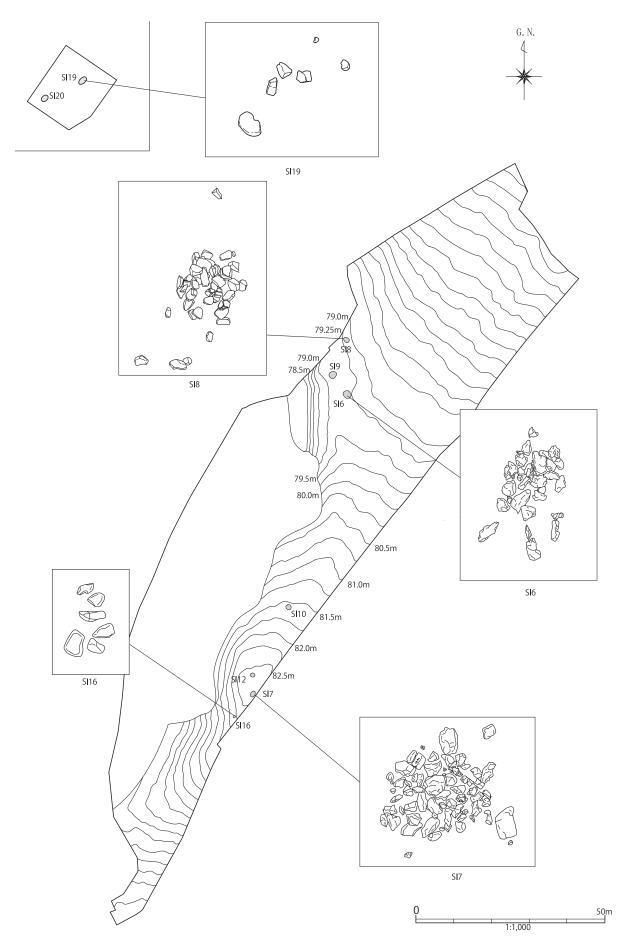
129~133 は接合資料 5 に接合する剥片 (129~132) 及び石核 (133) であり、凝灰 岩製である。134 は頁岩製の接合資料 6 である。135 は頁岩製の接合資料 7 に伴う石核である。136 は流紋岩製の接合資料 8 である。裏面に礫面が残存する。137~147 は石核である。137、139~142 は頁岩製、138、143~144 は流紋岩製、145 はホルンフェルス製、146 は 尾鈴山酸性岩類製、147 は黒曜石製である。流 紋岩製の石核は、一部分のみを剥ぎ取っており、礫面が多く残っているのに対して、その他の石 材はほぼ全面に渡って剥ぎ取っている。

148~152、154、155 は頁岩製の二次加工剥片である。150 は取上番号 1826 と 3323 の接合したものであり、微細剥離も見られる。156 は角錐状石器である。157~159 はホルンフェルス製の剥片である。160~163 は黒曜石製の剥片である。164~165 は水晶、166 は尾鈴山酸性岩類製の剥片である。

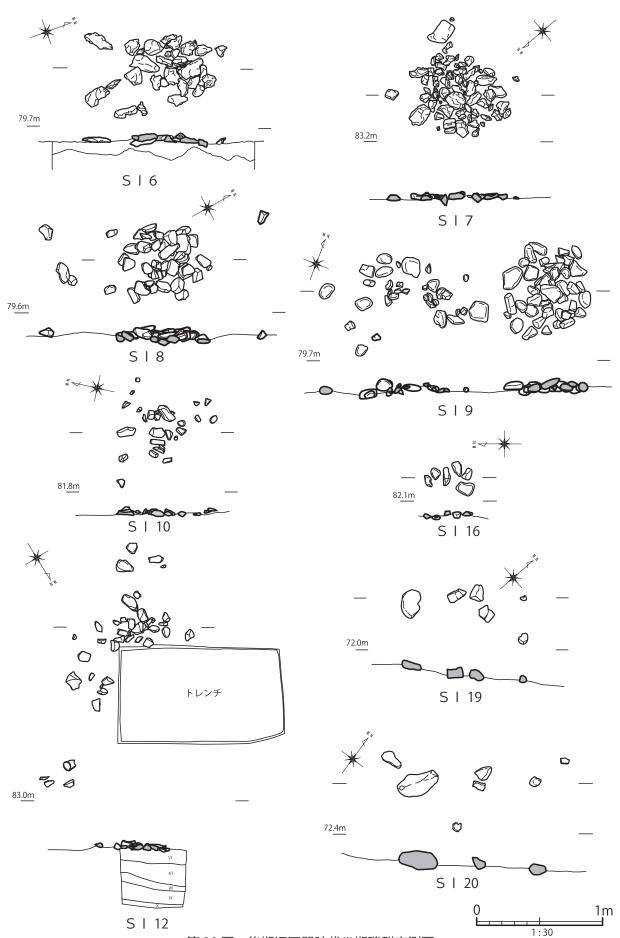
167 は砂岩製の敲石である。円礫を使用し、上下端に敲打痕が残る。

168 は砂岩製の敲石である。棒状礫を使用し、 上下端に敲打痕が残る。

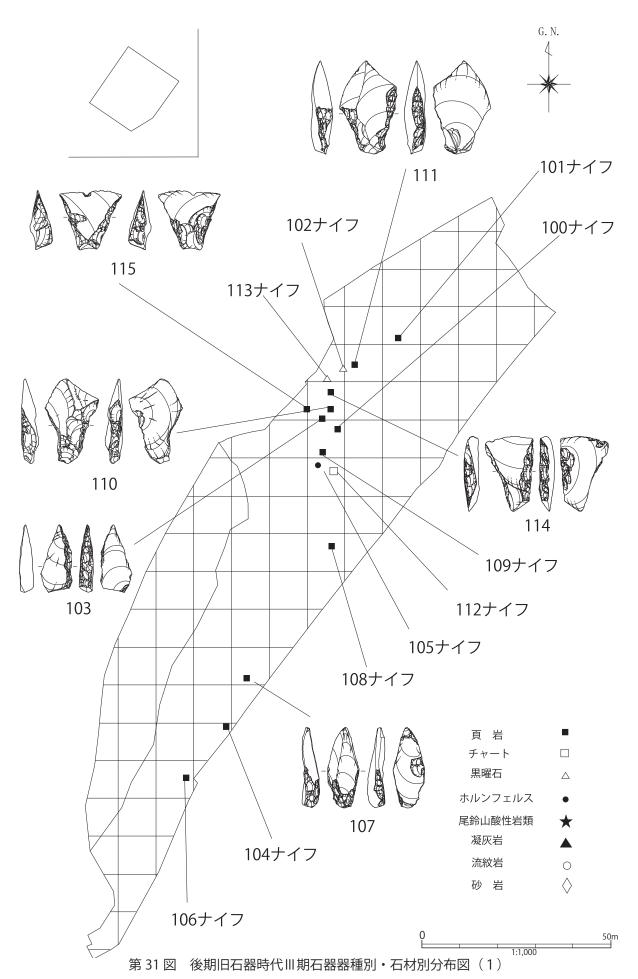
169 は砂岩製の磨石である。

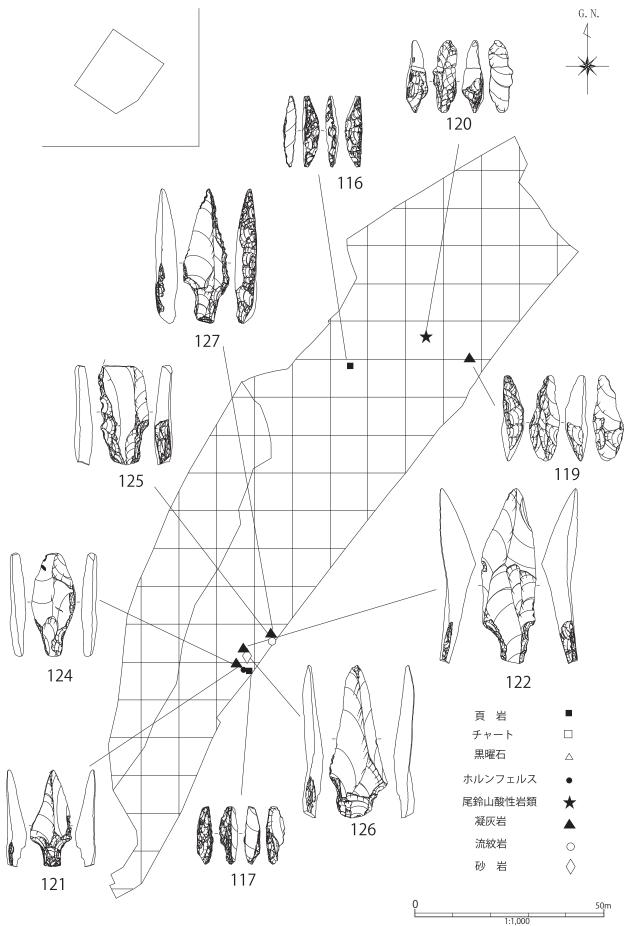


第29図 後期旧石器時代Ⅲ期礫群分布図

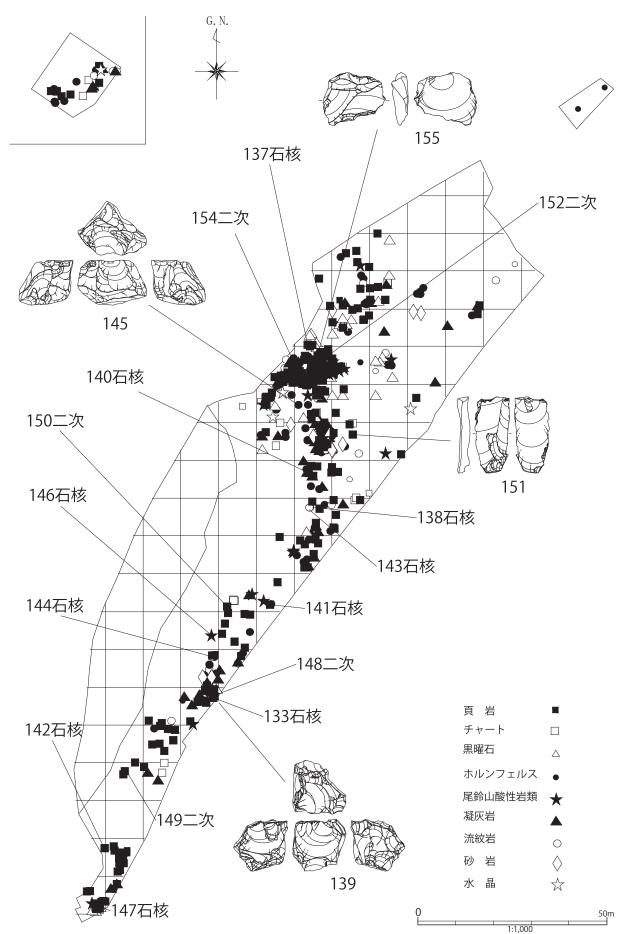


第30図 後期旧石器時代Ⅲ期礫群実測図

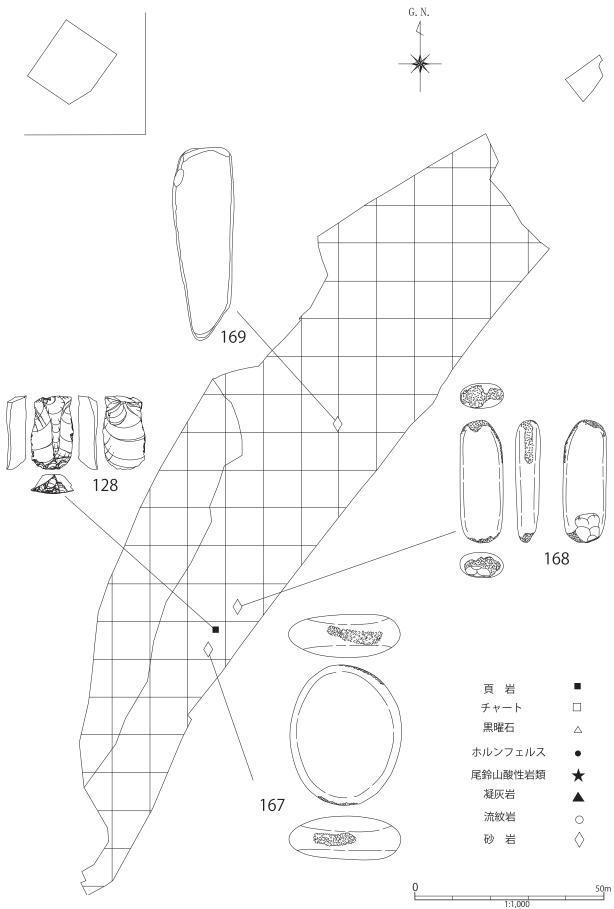




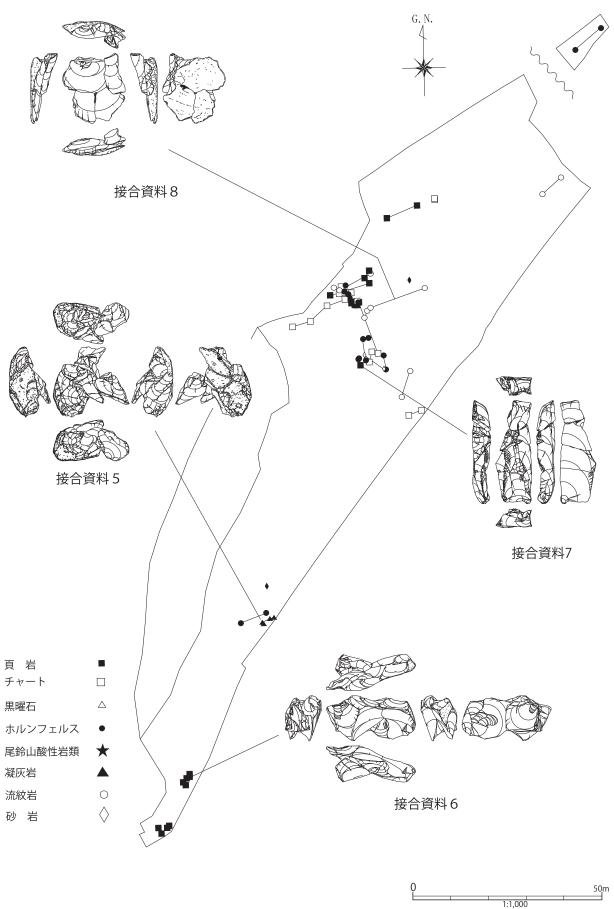
第32図 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別・石材別分布図(2)



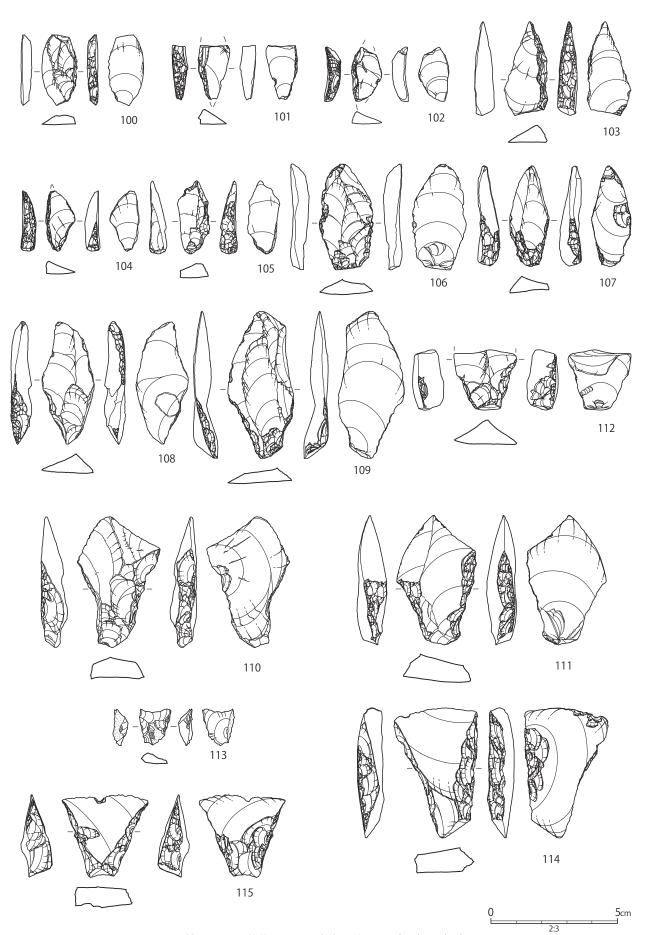
第33図 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別・石材別分布図(3)



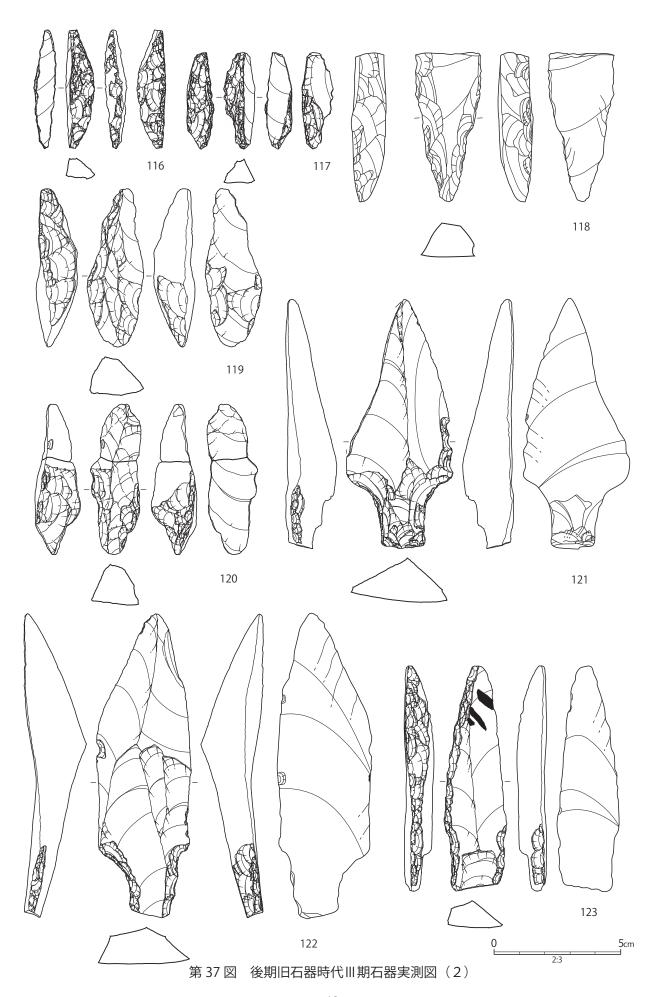
第34図 後期旧石器時代Ⅲ期石器器種別・石材別分布図(4)



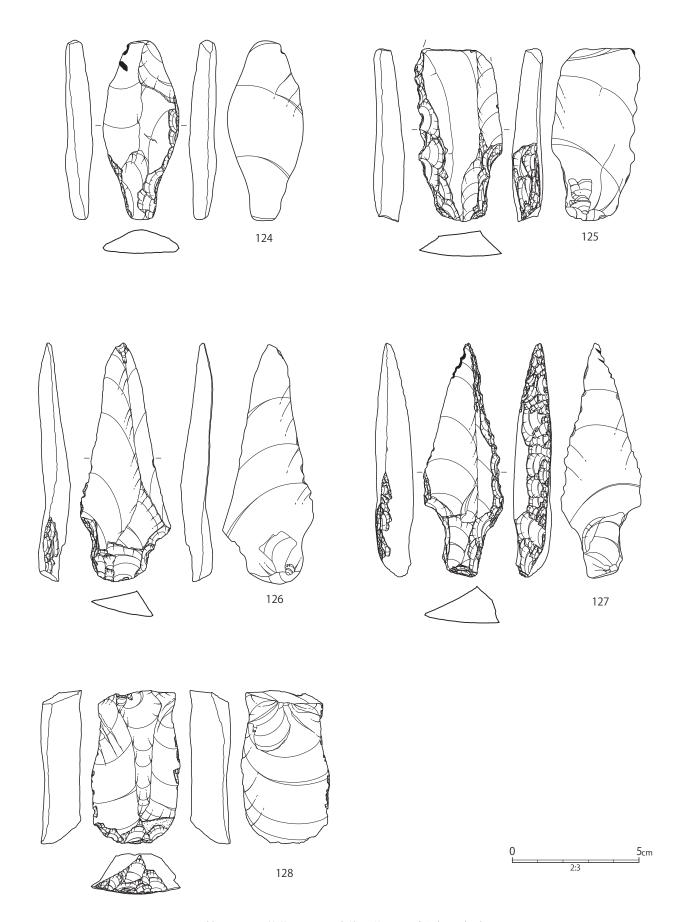
第 35 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器接合状況図



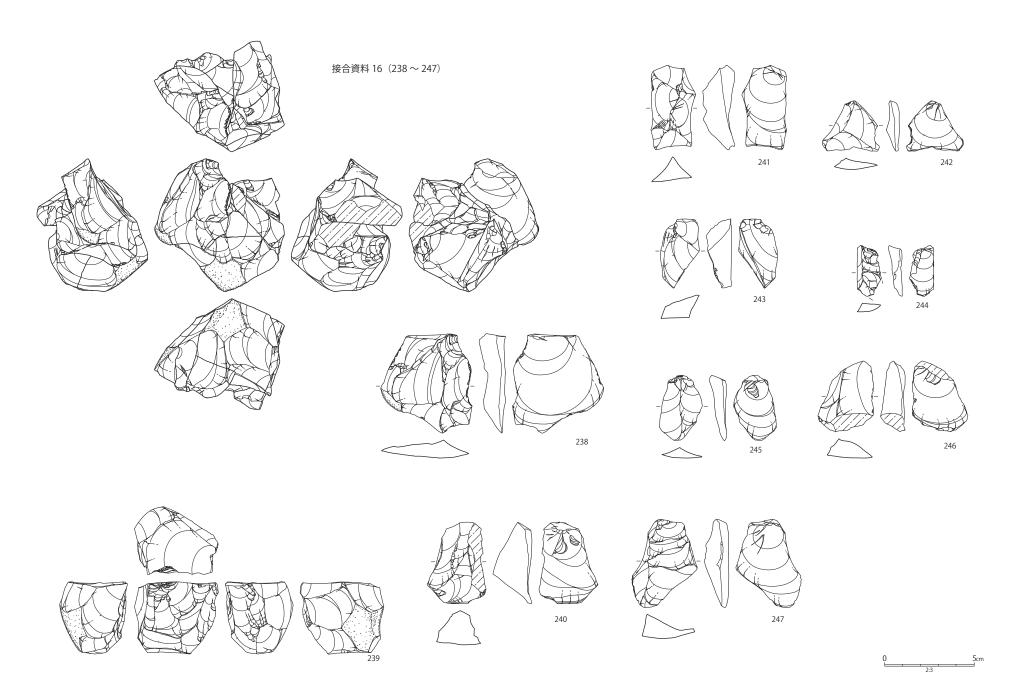
第36図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(1)



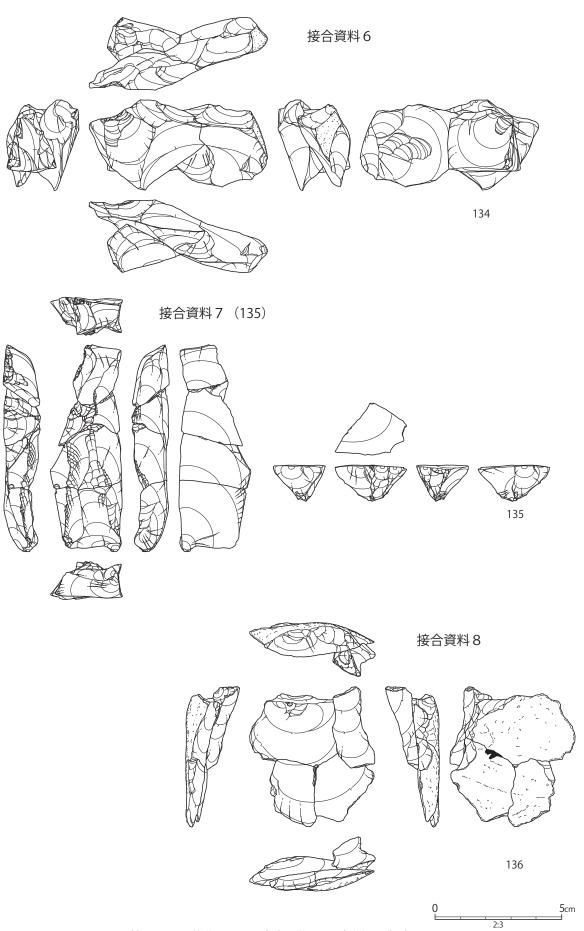
- 43 -



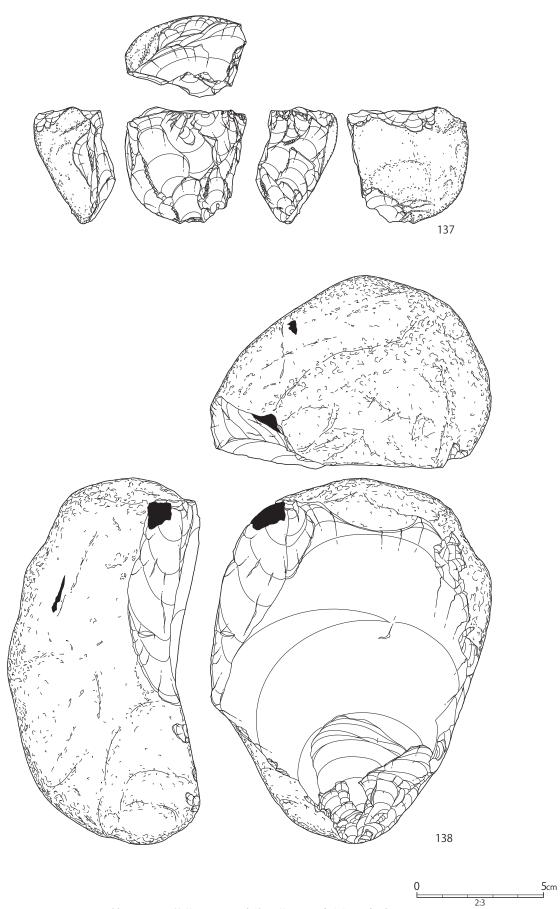
第38図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(3)



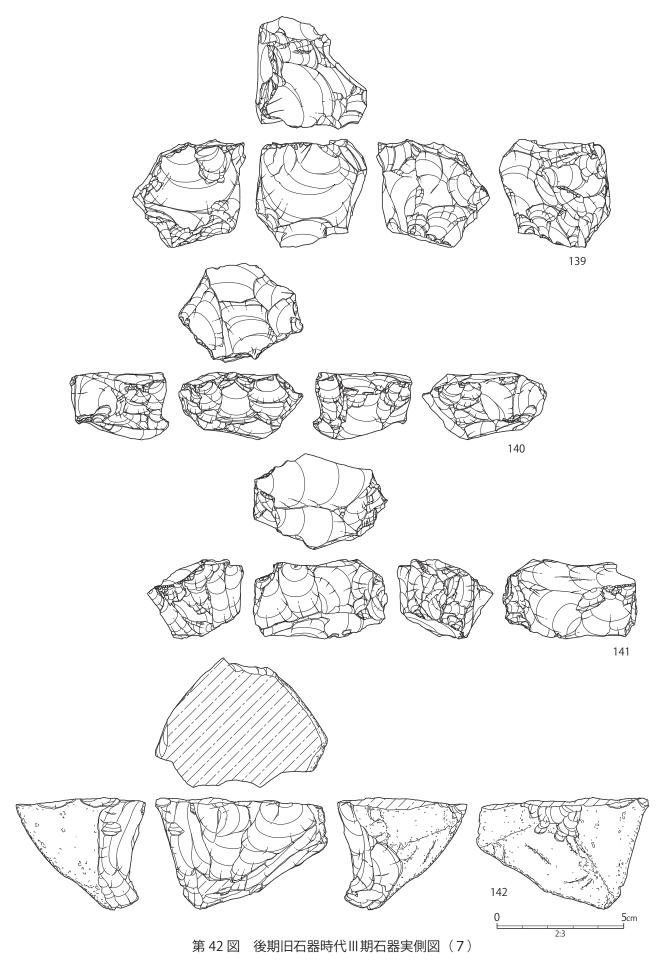
第39図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実測図(4)



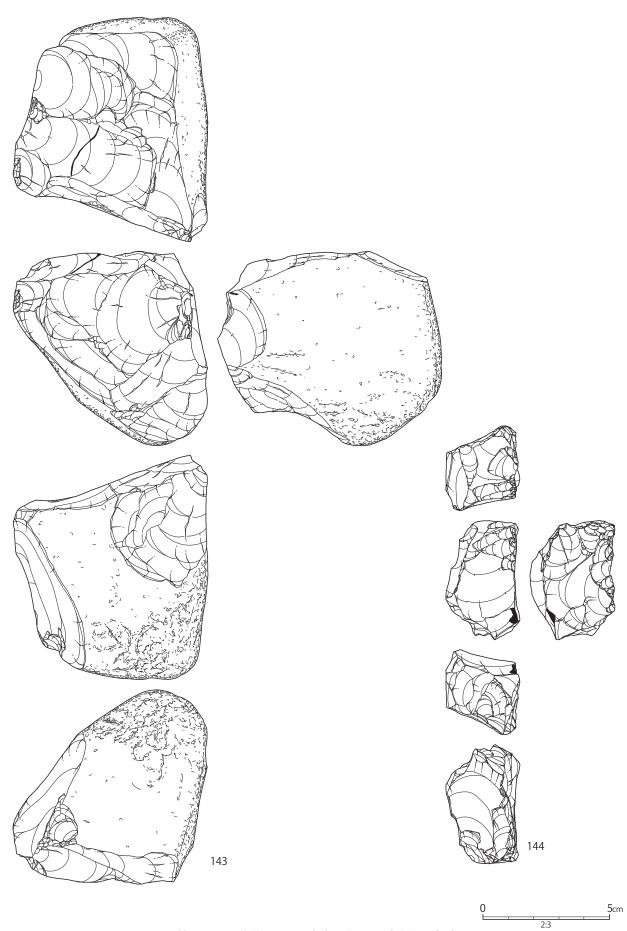
第40図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実側図(5)



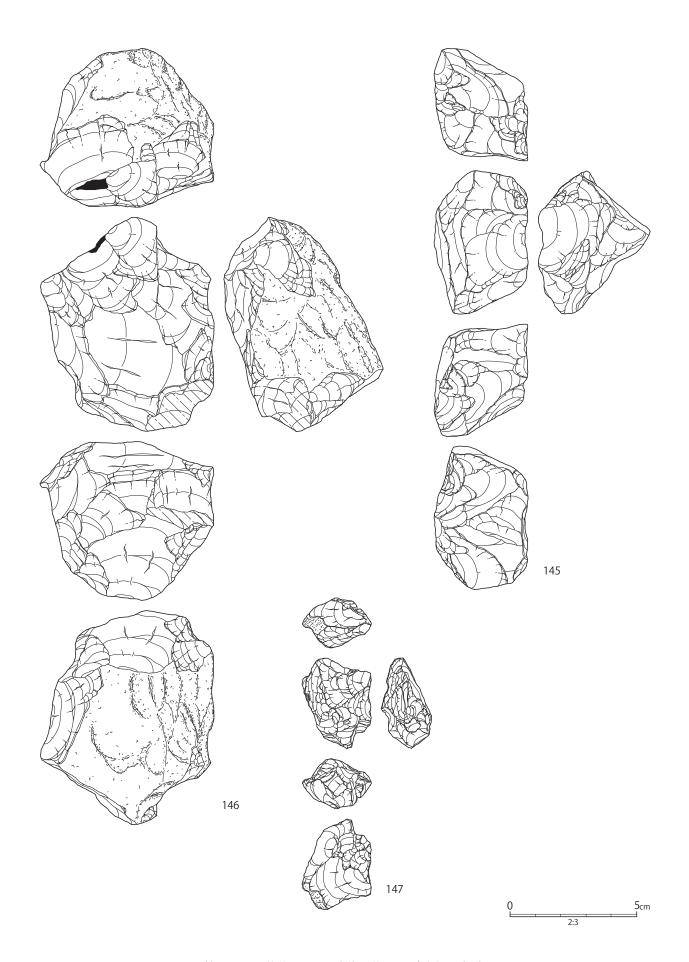
第 41 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実側図(6)



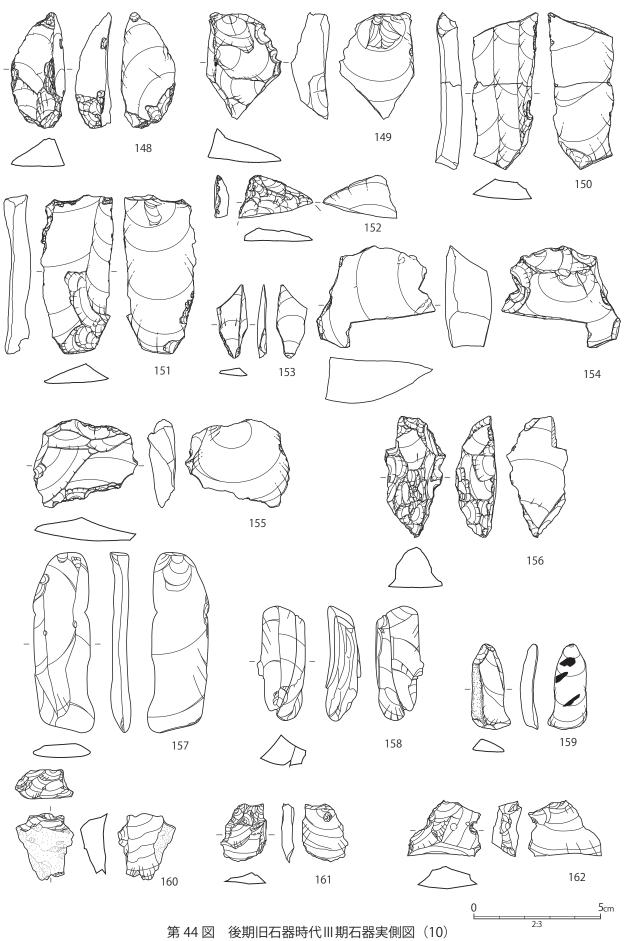
- 49 -

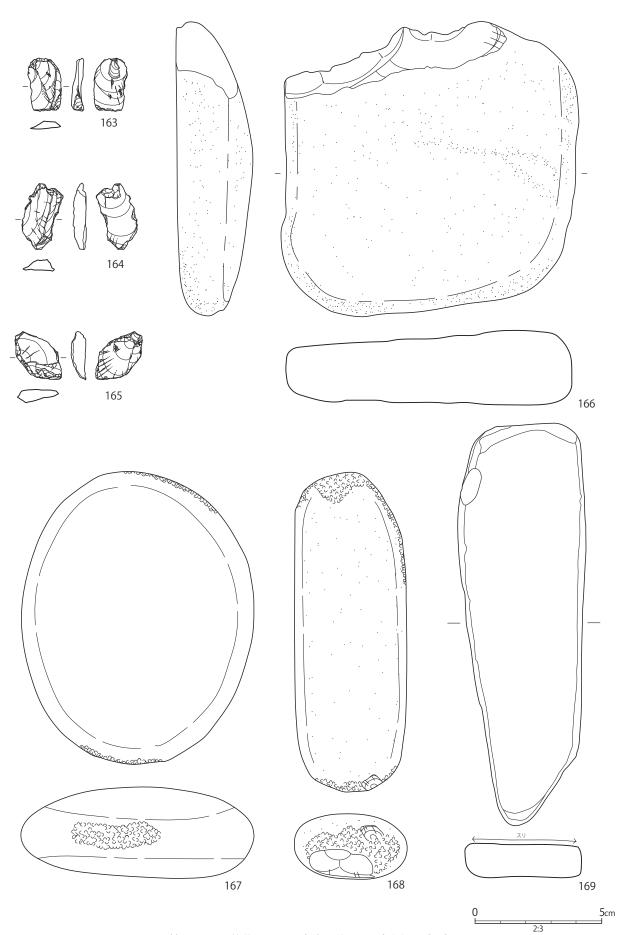


第 43 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実側図(8)



第44図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実側図(9)





第 45 図 後期旧石器時代Ⅲ期石器実側図(11)